

映像新聞

令和４年（2022年） 7月25日 第2537号

株式会社 映像新聞社
112－0006 東京都文京区小日向
1丁目24番8号エイゾービル
電　話（03）3942－2161（代表）
ファックス（03）3942－2581
毎週月曜日発行（月４回発行）
昭和42年１月25日　第３種郵便物認可
１部660円、年間購読料28,600円（税込）

Eizoshimbun 55th Anniversary 55th SINCE 1966

Visual Communications Journal

©映像新聞社

日本ケーブルテレビ連盟
2030ケーブルビジョン

策定2年目 実行の段階に

プラン実施意向を調査
事業者ごとに〝処方箋〟

中小事業者向けスキームも

日本ケーブルテレビ連盟（ＪＣＴＡ）は、地域共創・地域ＤＸに焦点を当て、ケーブルテレビ業界の課題解決・発展を図るために策定した行動計画「２０３０ケーブルビジョン」（２０２１年６月策定）を具体的に推進していくフェーズに入る。21日に開かれた「ケーブルコンベンション2022」の説明会でＪＣＴＡの渡辺克也理事長は、「２０３０ケーブルビジョンは策定から2年目を迎え、今年は勝負の年。ビジョンをどう具現化し実行に移すかが問われる」と語る。同専務理事の村田太一氏は「アクションアイテムを具体的に進めるための方策まで落とし込む作業を進めている」と話した。

「２０３０ケーブルビジョン」は、「地域ＤＸ」「コンテンツ」「ネットワーク」「ＩＤ」「サービス・ビジネス」の観点で６つのアプローチを設定。

例えば「放送」では、「地域における情報メディアプラットフォーム（ＰＦ）」を目標に、コミチャンのエリア内外への配信、民放ローカル局とも連携した地域共通映像配信ＰＦの実現などを行ルに展開、ケーブル４Ｋの全国ＰＦ化などを行動プランとした。

また「コンテンツ」では、「地域の魅力を創出するコンテンツプロデューサー」を目指し、ＮＨＫ・民放・コミュニティＦＭとのパートナーシップ強化、地域コンテンツの広域・全国・グローバ

「ワイヤレス」では、「地域ＭＮＯ（移動体通信事業者）として第５のモバイルキャリアを目指す」とし、地域ＢＷＡ、ローカル５Ｇの全国展開の推進、ローカル５Ｇと地域ＢＷＡ、ＬＰＷＡなどを組み合わせた無線インフラを構築し、地域ニーズに即した無線サービスを提供するといった多様なプランを設定している。

村田氏は、この１年、同ビジョン各テーマを実現するための58のアクションアイテムについて、各支部のイベントなどを通じてＣＡＴＶ事業者に説明。認知してもらってきたと語る。

ＪＣＴＡ理事の二瓶浩一氏は、その結果から、事業者ごとのより具体的な〝処方箋〟が見えてきたと話す。

例えば、ＳＤＧｓについて、普段は連盟活動に参加していないようなＣＡＴＶ事業者が取り組んでいたことが分かったとただこれらはすぐにビジネスにつながるものではなく、またＣＡＴＶ事業者ごとに課題や考え方も異なる。そこで各委員会がブレークダウンし、具体的に進めるための戦術まで落とし込む作業を進めているという。

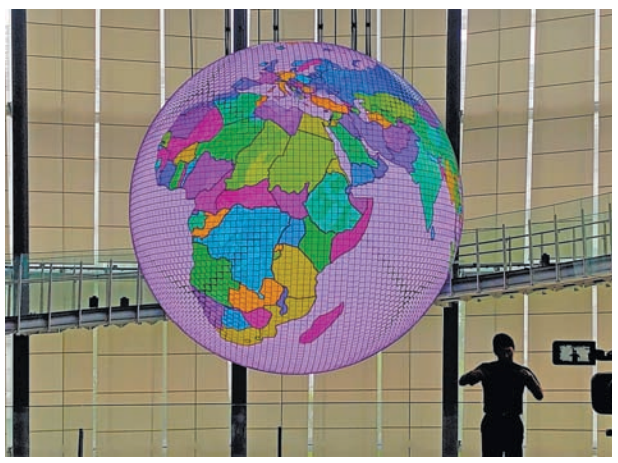
またＪＣＴＡでは同ビジョンについて、会員ＣＡＴＶ事業者に対し年明けに経営者、４月に実務責任者向けにそれぞれアンケートを実施。テーマごとに設定した４段階のステータスに対する回答から、各アクションアイテムに対する取り組み意向について情報を収集することができたという。

いうように、委員会活動だけでは分からない、さまざまな発見があったという。

ＪＣＴＡはこの処方箋をもとに、ステータスが共通するＣＡＴＶ事業者ごとにアクションアイテムの実施方策を提案するなど、事業者の取り組みやすさを重視しながらアクションプランを推進する。

またＪＣＴＡは同ビジョンの推進に関連し、中小ＣＡＴＶ事業者もアクションプランに取り組みやすいよう、地域コンテンツビジネス推進委員会が「この指とまれプロジェクト」を実施している。

これは先行事業者のリソースに乗っていきたいとの意思を持つ中小ＣＡＴＶ事業者がチームを作って進んでいけるようサポートする取り組みだ。今回その一環として、コミュニティネットワークセンター（ＣＮＣＩ）がｅスポーツへの取り組みのノウハウを提供する形で、多くの事業者が参画できるスキームを検討している。



日本科学未来館は、地球・球体型大型ＬＥＤディスプレー「ジオ・コスモス」の新映像作品の公開を開始した＝写真。４月のシステム更新後、初のオリジナル作品となる〈詳細13面〉

特集 8-12面
ケーブルコンベンション関連イベント
ケーブル技術ショー
Cable Tech Show 2022

本号の主な記事

［プロダクション］
ヨコシネがビデオフィルムセンターを移転、「渋谷ベース」として稼働へ …… 2
［技術開発］
ノキアが都内でイベント/5G新技術をデモ …… 5
［放送］
WOWOWが定例会見/映画とリアルイベントを発表 …… 7
［大型映像］
科学博物館の地球館/大型映像システムが稼働 …… 14

映像新聞ウェブサイト
http://www.eizoshimbun.com
購読のお申し込みはこちらから

緊急報道・災害・海外・派遣・インフラ構築
「ビジネスバッグにも収納可能な驚愕のアンテナ！」
SATCUBE

＜サットキューブ社　SATCUBEアンテナ＞
■ 災害・報道・海外派遣での映像音声・ネット伝送
■ 驚愕の超小型平面アンテナ（47cm X 30cm X 5.5cm）
■ ノートＰＣサイズ・超軽量約８ｋｇ（機内持ち込み可）
■ わずか１分で通信準備可能（誰でも簡単に衛星補足・組立不要
■ １５Ｍｂｓｐ広帯域映像伝送可能（高いポテンシャル）
■ 航空機持ち込可能なバッテリで運用可能。
■ 運用中のバッテリー交換可能（ホットスワップ対応）
■ カメラバッテリを運用できる特注電源オプションあります。
■ モバイル中継装置（Live U・TVU等）と連携可
エーティコミュニケーションズ株式会社
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-55-14
TEL:03-5772-9125　http://www.bizsat.jp

THIRDWAVE Pro　Dospara plus
ビジネス向けPC「THIRDWAVE Pro」に
Illustrator、PhotoshopなどAdobe製品の
1年サブスクリプション同時購入モデル
登場！
同時購入モデルには当社推奨スペックモデルを選定！

株式会社サードウェーブ 法人営業統括本部
電話受付時間 平日9時～18時
03-5294-2041
お問合せはこちら
sales_hq@twave.co.jp　https://www.dospara.co.jp/plus/software/adobe_cc/desktoppc_set/

ヨコシネ ディー アイ エー

ビデオフィルムセンターを移転

8月22日から「渋谷ベース」として稼働

ヨコシネ ディー アイ エー（本社＝横浜市神奈川区）は、東京・宇田川町のビデオフィルムセンターを、近隣のビル「VILLAGE 111」（渋谷区宇田川町42−2）に移転し、一部業務を開始した。8月22日に正式にオープンし、事業所名も「渋谷ベース」と一新する。



ビデオフィルムセンター㊧と道を隔てた建物にある

ヨコシネが入居していた第一共同ビルは今年で築50年を迎える。老朽化による建て替えが決まったため、同社も移転することとなった。移転先は第一共同ビルの裏手にあたる建物で、ここの1階と2階に事務所とポストプロダクションスタジオを構えることになる。

新スタジオにはオンライン編集室3室とオフライン編集室A室2室、コピールーム（マシンルーム）、打ち合わせ室を備え、これまでと同様の機能を持たせた。

既にオンライン編集室1室は移転済みで、7月中旬から稼働している。オフライン編集室2室もシステムの検証が済み次第、運用を始める。

編集室はHD1室と4K2室（うち1室は8K対応）。MA室は5・1ch仕様が2室で、両室ともメインシステムを「フェアライト」からDAW「プロツールス」とコントロールサーフェス「S4」に変更した。

素材共有ストレージ「NEXIS」は200テラバイトを追加し、計400テラバイトとする。コピールームで運用していたD5などのVTRもそのまま移転し、サービスを継続する。

システム設計・施工は朋栄、内装デザインは羅漢が手がける。音響関連はトライテックが担当している。

◆新拠点を映像制作の〝ベース〟に

営業部長である藤本貴志取締役は新スタジオについて「当社は1972年、第一共同ビルが完成したときからここでポストプロ業務を展開してきた。顧客には『ヨコシネといえばここ』というイメージがあるので、混乱を避けるため新スタジオは極力近い場所を選んだ」と話す。

移転先は道を隔てた反対側となり、「徒歩でわずか5秒の距離」（同氏）のため顧客をすぐに案内できる。フロアは1階、2階とも窓が大きく取られ、明るいイメージを演出している。

移転作業は業務を止めないことを重視した。スタジオはオープンの前後いずれも予約が入っているといい、1室ずつ移すことで顧客に影響が出ることがないよう気を配っている。

同社はスタジオとしてのスタンスを〝確実性〟に置く。藤本氏は「今、渋谷周辺には多数のポストプロスタジオが拠点を構え、さまざまな先端技術を特色としているが、当社はどちらかといえば間違いのない仕事をしっかりと継続することを重要視している」と説明。

「移転後も、顧客から求められていることにきちんと対応していく」と話す。

社内公募で選んだという名称の「渋谷ベース」にも同社のめざすものが現れている。藤本氏は「コロナ禍の下でリモート環境の活用が進んだが、映像制作業務では、社会状況に対応することと同時に、スタッフが集まって顔を合わせコミュニケーションをとることが重要。当社スタジオがその拠点＝ベースになればという思いを込めている」と話している。

なお内覧会は開催しないが、希望者には随時スタジオを案内する。

◆ヨコシネ ディー アイ エー 渋谷ベース

住所＝渋谷区宇田川町42−2 VILLAGE 111階（受付）、2階▽電話＝03−3464−4882▽ファクス＝03−3464−4080▽オープン日＝8月22日



渋谷ベースのエントランス

編集室全7室、MA室2室の構成

ギークピクチュアズ

コンテンツスタジオを発足

ニーズに合わせ企画から拡散まで

GEEK Viral□



多彩な人材のネットワークを活用できる

ギークピクチュアズは、マーケティングやブランドコミュニケーションなど、顧客のニーズに合わせたコンテンツを企画・制作・発信・拡散するスタジオ「GEEK Viral□（ギークバイラルボックス）」を発足した。

同スタジオは、「バイラル（Viral、伝染）するボックス＝コンテンツをつくり発信する」ことをコンセプトとする。同社のプロデュース力やクリエイターネットワークに、「ストラテジー」「クリエイト」「インフルエンス」を組み合わせることで、コンテンツの提案から制作、ブランディングにおける活用まで統合的に担う。

ネットワークには人気のインフルエンサーや若手クリエイターがおり、ニーズに合わせた人材を提案する。インフルエンサーを活用したプロモーションの支援もする。

ギークバイラルボックスは現在、テレビやSNS、音楽、イベント、アパレル、文芸、スポーツで活躍する人材や企業といった業務提携パートナーを募集している。

ダイナモピクチャーズ

任天堂に株式を譲渡

「ニンテンドーピクチャーズ」に

は10月3日付けで任天堂の子会社となり、任天堂IP（知的財産）のCG・アニメーション制作のダイナモピクチャーズは7月14日、任天堂と株式譲渡の契約を締結したことを発表した。

商号は「ニンテンドーピクチャーズ株式会社」とする。ダイナモピクチャーズ







番組画面撮影でスクラッチくじ
「みるみる88キャンペーン」第2弾
BSフジ
4K放送の視聴促進も

ビーエスフジ（東京都港区／以下、BSフジ）は、BeesLineのリアルタイム映像認識システムとフジミック開発のブラウザーを活用した「みるみる88キャンペーン」の第2弾を実施している。

今年1月の第1弾と同様、視聴者がスマートフォン（スマホ）でBSフジの公式サイトにアクセスし、そのカメラ機能でBSフジの番組画面を撮影すると、賞品総額100万円分のその場で当たるデジタルスクラッチくじを引くことができ、ポイントを貯めて商品応募もできる。

さらに今回は、A－PAB主催の4K視聴キャンペーンの後押しとして、4Kを中心とした特別番組にボーナスポイントを加算し視聴促進を図る。

また、指定の番組中にBSフジショッピングへ遷移するとポイント加算されるボタンを設置し、今後想定されるスポンサーの同キャンペーンへの出稿を検証。まだら放送での同仕組みの利用価値を検証する実証実験も182chで実施する。

キャンペーン期間は11－31日。プレゼント応募は8月7日締め切り。

地域局アナが集めた防災ポイントを発信
NHK

NHKは、地域放送局のアナウンサーがまとめた、災害リスクのある場所のきめ細かい情報を「防災のポイント」として、アプリやウェブに掲載する試みを始めた。内容は、周辺の地形や過去の災害事例、災害時の対応など。

BeesLineのリアルタイム映像認識システムは、ライブで放送される映像・音声コンテンツの特徴量をほぼリアルタイムで抽出する技術を用いて構築しており、スマホのカメラ機能で番組と連動できる。スマホから簡単にキャンペーンなどに参加できる環境を作れることが特徴だ。

各局のアナウンサーが緊急報道の際、住民への避難呼びかけのため、実際に現場を取材するなどして集めた情報で、この情報を、いつでも確認できるデジタル上に公開することで、地域の防災・減災に役立つことを目指している。

A－PAB
新4K8Kで見ようよ！キャンペーン
4回目のNHK、民放共同企画
25－31日

放送サービス高度化推進協議会（A－PAB）は19日、NHK＋BS民放5社共同キャンペーン「新4K8K（BS）放送で見ようよ！真夏のリレー1週間」について発表した。同キャンペーンは4回目のNHK、民放共同企画。25－31日の期間、各局がおすすめ4K8K番組を局またぎでリレー放送する。キャンペーンナビゲーターには、前回に続き落語家の春風亭昇太を起用。キャンペーン紹介番組でガイド役、各局キャンペーン番組間のリレー役を務める。


キャンペーンナビゲーターの春風亭昇太

おすすめ番組を局またぎリレーで

A－PAB理事長の相子宏之氏は、「多彩な動画配信サービス、インターネットサービスが普及する中、放送メディアの価値向上が叫ばれている。新4K8K衛星放送、新たなBS放送サービスも放送の価値向上につながると考えている」と述べる。



キャンペーン事前番組

「真夏のリレー1週間」のラインアップは、25日（午後6時～）がBSフジ4K『Earth Walker』、26日（午後6時54分～）がBS東4K『日本の乗れない鉄道に乗ってみた！』、27日（午後9時～）がBS－TBS4K『美しい日本に出会う旅 夏 祇園祭の京都へ 2時間SP！涼を感じる7つの旅スタイル』、28日（午後7時～）がBS日テレ4K『春夏秋冬・・・京都物語 千年の都で禅を探す旅』、29日（午後6時～）がBS朝日4K『ワールドプロレスリングリターンズ 4K2時間スペシャル～ベスト・オブ・ザ・スーパー・ジュニア優勝決定戦』、30日（午後8時～）がBS松竹東急、4K2時間スペシャル～ベスト・オブ・ザ・スーパー・ジュニア優勝決定戦』、30日（午後8時～）がBS松竹東急、4K2時間スペシャル昭和レトロ』、31日（午後7時～）がNHK BS8K『国宝へようこそ 霧島神宮』。


（左から）BS松竹東急の橋本社長、ジャパネットブロードキャスティングの渡邊氏、BSよしもとの稲垣社長

なおA－PABでは現在、継続実施している新4K8K衛星放送の魅力についての調査研究の一環として、同放送を視聴した感想や評価などを尋ねるアンケートを実施中（8月5日締め切り）。回答者から抽選で10人に3万円相当、200人に1000円相当のデジタルギフト券が当たる。同アンケートの結果は分析・考察し、公表する予定。

会見ではBS放送に新規参入したBS松竹東急、東急は橋本元社長が、自局の軸である映画、舞台、オリジナルエンターテインメントにおける取り組みを示した。

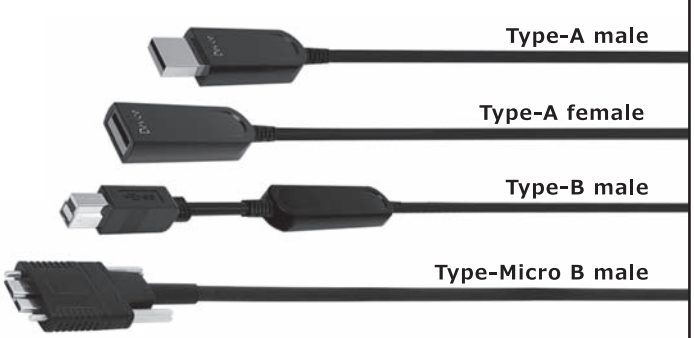
舞台においては、8月に中村獅童×初音ミク出演の『超歌舞伎』を2週連続（8月13、20日）に放送。スポーツでは、3年ぶりの開催となる『鈴鹿8時間耐久レース』（同7日）、オリックス戦の生中継（同5、10日）を放送する。

ジャパネットブロードキャスティングは番組制作一部シニアリーダーの渡邊怜生氏が、公式スマホアプリを使った「つながる」番組について説明。今後はスポーツ中継にも取り組みたい意向だ。BSよしもとは、稲垣豊社長が登壇し、地域創生をコンセプトに、幅広い層に訴求する放送局を目指していると説明した。

2022年8月26日（金）発売予定

5Gbps 専用 光ファイバ USB ケーブルシリーズ

USB 3.2 Gen1規格専用で安価なデータ通信用長尺光ファイバケーブルシリーズ



・USB 3.2 Gen1 （USB 3.0）規格専用
・最大転送速度5Gbps
・最長100m　※Type-Aケーブルのみ
・摺動屈曲（U型屈曲）試験 2000万回　※A-Micro Bケーブルのみ
・優れた電磁両立性

USB3.2 Gen1 (USB3.0) / USB Type-A / USB Type-B / USB Type-Micro B / 5 Gbps

ADTECHNO
www.ad-techno.com / info@ad-techno.com

株式会社エーディテクノ
〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町 3-29 FORECAST 市ヶ谷 3F
TEL：03-5206-3330 / FAX：03-5206-3339
［大阪営業所］
〒553-0003 大阪市福島区福島 5-13-18 福島ビル 7 階
TEL：06-6451-0050

1日レンタル　LiveU
￥55,000～（税込）
LiveU レンタル好評受付中！

スポーツ・ネット配信・展示会等、様々なイベントでご使用頂けます。
国内外で多数のレンタル実績、海外レンタルにも対応可能です。
イベントによっては特別なプランもご用意しております。



お問い合わせ
03-5484-7270

三信電気株式会社 ソリューション営業本部 映像システム営業部
http://www.sanshin.co.jp/business/solution/vd

テレビ70年　番組大型化から見えるもの　2

スポーツ番組の変化

今月は、テニスのウインブルドン、大相撲の名古屋場所、ゴルフの全英オープン、米国ＭＬＢオールスターゲーム、世界陸上オレゴン大会等々、スポーツ関係の特番が目白押しだ。もっともスポーツ中継自体は、地上波テレビでは厳しい状況が出てきている。この30年ほどでスポーツバラエティーへと進化させる試みも起こっていた。こうした流れの中、テレビに少し追い風が吹き始めている。

（次世代メディア研究所　鈴木祐司）

★大型番組ラッシュ

今月は大型特番ラッシュだ。報道関連では、第26回参議院議員通常選挙が先月下旬に告示されたため、各種特番が今月組まれた。

そこに7月8日、安倍晋三元首相が銃撃され、各局が昼頃から深夜までの特番を編成した。そして10日、選挙の投開票特番を全局が組んだ。

スポーツ特番では、先月末から10日まで英国ウィンブルドンテニスがあり、ＮＨＫは深夜に連日の特番。10日から2週間は大相撲中継で、午後から夕方6時まで中継が連日入った。

14日からはテレビ朝日が第１５０回全英オープンゴルフを中継し、深夜帯で4日間に渡り4～5時間中継した。そして16日から10日間は、ＴＢＳの世界陸上オレゴン大会があり、朝から午前中の4時間ほど、多い日は7時間に渡って放送されていた。

20日には米国ＭＬＢオールスターゲーム２０２２が、対テリー・アレンのボクシング中継。勝敗を占うクイズが実施されたが、同じ試合を中継したラジオ局より、11倍も多い回答が寄せられ、テレビ広告の躍進に寄与した。

翌年2月のプロレス中継（力道山・木村政彦対シャープ兄弟）も、テレビの普及に貢献している。新橋西口広場の街頭テレビには2万人の群衆が殺到し、警察も手が付けられないほどの状態になった。小柄な日本人がアメリカの大男を倒す様に、人々は熱狂。力道山の空手チョップが、日本人の心を鷲掴みにしたのである。

ビデオリサーチによれば、歴代の高視聴率番組ベスト10のうち、スポーツ中継は7つまで占める。スポーツは放送直後からキラーコンテンツだったのである。

さらにオリンピックもＨＵＴ（総世帯視聴率）を跳ね上げる威力を持った。また巨人戦中継は75年から90年まで、1シーズンの平均視聴率が20％を超え続けた。特に83年は27・1％とピークを記録。各局が中継権の争奪戦を繰り広げたゆえんである。

★放映権料高騰で厳しさ

ただしスポーツ中継は、広告収入前提の地上波テレビにとり、次第に意味合いを変えていく。例えば巨人戦は、娯楽や好みの多様化の中、次第に数字を落とし夜帯の放送からはほぼ撤退した。

その原因の1つが、93年誕生のＪリーグ。地域に根付いたスポーツというシステムが、一極集中時代の巨人戦を退けた。しかしＪリーグは17年にＤＡＺＮと独占中継の契約を結び、地上波でＪリーグ中継は見かけなくなった。

オリンピックも放映権料高騰でテレビ局は赤字に陥っている。スポーツ中継は、広告前提の放送では支えられなくなってきたのである。

国で現地版が展開されており、１６０の国と地域で視聴できる世界的人気番組だ。日本での視聴者層をみると、Ｃ層（４－12歳）から65歳以上の高齢者まで、幅広い層に見られている。競技自体が誰でも参加でき、多くの人が見て楽しめる要素が満載だからだ。

オリンピックは近年、若者に人気の競技を正式競技に取り込み、スポーツの祭典としての価値を高めようとしている。夏季大会のスケートボードや冬のハーフパイプなどだ。

『ＳＡＳＵＫＥ』が採用されれば、娯楽要素をさらに強めた新種目が今後生まれてくる可能性が出てくる。そうなれば、スポーツバラエティーを開拓してきた日本のテレビ番組が、番販やフォーマット販売の形で、世界に広まっていく。

視聴率や広告収入など厳しい話が多かった近年のテレビ業界に、新たな追い風となることが期待される。

一方、この間に伸長したのがスポーツバラエティー。例えば23日に放送されたＴＢＳの2時間超のＳＰ『炎の体育会ＴＶ』は、異種競技対決、子供や芸能人との真剣勝負など、アスリートが正規の競技を少し変えてガチの勝負に挑むという番組だ。

スポーツバラエティーはテレビ朝日の『ビートたけしのスポーツ大将』やＴＢＳ『筋肉番付』を源流とするが、純粋なスポーツ中継からの応用版として勃興したジャンルである。

★画期的展開へ

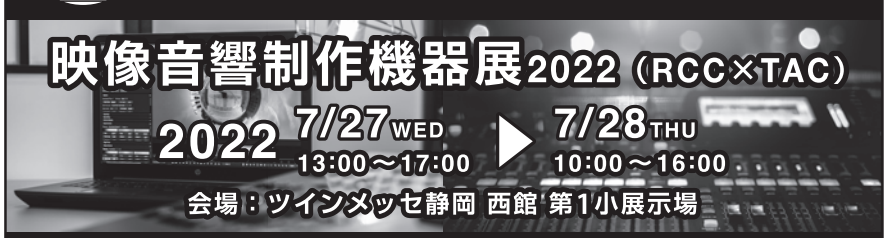
このスポーツバラエティーの中から、画期的な状況が生まれようとしている。１９９７年に始まったＴＢＳ『ＳＡＳＵＫＥ』が、オリンピック競技の候補になったのである。今年6月にトルコで行われたテスト大会では、ＴＢＳが提供したセットも使われた。名物の「うんていい」や反り返った壁の「そり立つ壁」などだ。19カ国から80人の選手が挑んだそうだ。

同番組は欧米など25カ

バラエティーへと〝進化〟

番販やフォーマット販売で世界へ
業界の新たな追い風に期待

Restar Communications Corporation



株式会社レスターコミュニケーションズは、タックシステム株式会社をグループ会社として迎え、
この度、映像音響制作機器展（プライベート展）を開催します。

ぜひこの機会にご来場ください！

フィルベースソリューション
Avid NEXIS | EDGE
Avid FastServe

カラーマネジメント / トランスコーダー
Mistika Boutique SGO（最新バージョン）
Mistika Workflows SGO

MAソリューション
Avid Pro Tools
Avid S1/Dock Control Surface
NUENDO

コンテンツ管理
Dalet Flex / Dalet Brio

音声解析ツール
Cinnamon BOX（仮名）

放送向けコンソール
STAGETEC
AVATUS / NEXUS

レンタル商材
ソニー　撮影カメラ
ローランド　リプレイヤー

LEDショールーム紹介ブース
Restar Vision Park
3D 体験

詳細ページはこちらから | WEBフォームよりお申し込みいただけます。
URL:https://www.restarcc.com/pickup/exhibition-information/shizuoka2022
Mail：info_mk@restarcc.com

株式会社レスターコミュニケーションズ
東京都品川区北品川5-9-11 大崎MTビル3F・4F
TEL:03-3445-2070 https: //www.restarcc.com

タックシステム株式会社
東京都品川区北品川5-9-11 大崎MTビル11F
TEL:03-3442-1525 https://www.tacsystem.com/

ASTRO

小型・軽量・高画質



8Kマルチパーパスカメラ　NEW

AB-4830　カメラヘッド
AC-4829　CCU



コンパクトサイズで超軽量（実測340g）の8Kカメラシステムです。
グローバルシャッターのカメラセンサーを搭載し、
歪みの少ない映像撮影を実現しました。

アストロデザイン株式会社
事業本部（営業）　〒145-0066 東京都大田区南雪谷1-5-2 TEL:03-5734-6301
京 都 オフィス　〒600-8177 京都市下京区烏丸通五条下ル大坂町394 京都近江屋ビル2F TEL:075-746-5605
https://www.astrodesign.co.jp

ノキアソリューションズ&ネットワークス（東京都港区／以下、ノキア）は20日、5Gテクノロジーとソリューションを訴求するイベント「Connected Future 2022」を東京ワールドゲート・虎ノ門（東京都港区）で開いた。規格が5Gから5Gアドバンスドに進化する中、インフラを担う実際の製品の改良が進んでいる様子が示された。特に印象的だったのは、システム全体のセキュリティー対策と液冷型の基地局設備であった。外部と多くの接点を持つ電話網の防御は喫緊の課題である。水冷化では、空調にかかわるエネルギーを90%削減できるという。電子機器が放出する熱は大きな問題であり、液冷化による低コスト熱伝送は、消費エネルギー削減の効果が大きい。コンテンツ配信の業界も熱問題は避けて通れないことから、液冷化は注目される。（杉沼浩司）

都内で「Connected Future 2022」開く

ノキアが5G新技術をデモ



ブライアン・チョー博士は「フィンランドで自動車を購入したが、半導体不足で1年8カ月待たされた」と体験を語った

液冷型の基地局設備で熱対策

システム全体のセキュリティーも強化

★第7波到来

7月半ばから、全国的新型コロナウイルス感染症（COVID―19）がまたも増加している。世界的にも拡大は続いているが、現在のところ移動制限などは目立たない。

CGと対話型メディアの学会・展示会「SIGGRAPH」が今夏開催されるカナダのブリティッシュコロンビア州や、IBCが開催されるオランダでは、新規感染者は若干の増加にすぎない。この程度であればイベントへの影響は考えがたい。

一方、米国は日本ほどの急峻な立ち上がりではないにせよ、はっきりと増加を見せている。アジアでは、日本のほか、シンガポールの増加が顕著であり、韓国も目に見えて増加している。

アジア各国でのCOVID―19患者数増加が著しい場合、域外の各国から入国規制などが課される可能性もある。現時点では動きはないが、今後の増加度合いによっては、国際間の移動に制約が課されることを覚悟しておく必要があろう。

★10倍の効果

人を動かさずに情報を動かすのが通信の役目である。地上ネットワーク、無線アクセス網の双方で大きなシェアを持つフィンランドのノキアは、7月20日に東京で、地上と無線の双方にかかわる新製品・新技術のデモイベントを開催した。

冒頭、ノキアソリューションズ&ネットワークスのジョン・ランカスターレノックス代表執行役員社長は、通信事業者は総収入の8―12%を電力費に費やしていると指摘し、ここの削減が大きな関心になっているとした。さらに、通信事業者のエネルギー削減への取り組みは、産業全体の二酸化炭素（CO2）削減に寄与する、ともしている。

「通信業界のデジタル転換が進めば、（環境面で）10倍の効果がでる」と、今回も強調された。この指摘は、ノキアのペッカ・ルンドマルクCEOがMWCなどで強く主張してきたものである。

★CAで5G範囲拡大

続いて講演に立ったノキア製品管理部門責任者のブライアン・チョー博士の演題は「最適で持続可能なネットワークの実現に向けたRAN（無線アクセスネットワーク）製品の戦略」となっており、持続可能性を意識したものとなった。基地局設備変復調器の低電力化や、空調不要な屋外設置型、液冷型にも言及があった。

中核設備を液冷化することで、基地局のCO2排出量を90%削減、基地局用冷却システムのエネルギー消費量を90%削減する。日本ではKDDIが、米国ではAT&T、欧州ではEIisa（フィンランド）が試行中という。

5Gの状況も報告された。複数の周波数帯を束ねるキャリア・アグリゲーション（CA）が進化している。TDD（時分割多重）周波数帯と、低い周波数帯のFDD（周波数分割多重）との融合も始まった。

米Tモバイルの例として示されたのは、ローバンド（600MHzから2・6GHz）でのFDD運用とミッドバンド（2・9―4・9GHz）のTDD運用を融合して使用するものだ。米国のPC情報誌の測定では、他の2社と比べて約50%高いビットレートを達成している。

チョー博士は、ミッドバンドのみでは到達できなかった上り（端末→基地局）の制御信号がローバンドで到達するため、制御と通信が分離され効率が上がり、さらに到達範囲も広がったとの分析を述べた。

★液冷基板に交換

デモでは、基板を液冷化した基地局用ベースバンドユニットが展示された。同社は半導体の冷却フィンから液体で熱を奪う方式を採用している。一部のPCで実施されている、基板全体を液体に浸ける「液浸」ではない。

基板を浸ける場合、液体が樹脂などを腐食しないように十分な検討をする必要がある。また、装置が大型化する。ノキアの液体冷却は、基板の放熱器を覆う金属の内部に精製水を流す。水道水を使わないのは、不純物の堆積を警戒したからという。



液冷に対応した基板㊧と従来の空冷基板。従来と同じ装置に挿入できる

基板を冷却して温度が上がった水は、パイプに入ったまま集められ、熱交換器で温度が下げられ、再び機器の冷却に向かう。システムは、完全に閉じた系であり、異常を検知できる。

システムは、適切な対応策も提示でき、いつでも「何かあったら再起動」ではない。異常検知の速度は、「数秒以内」（担当者）とのことであり、現場を押さえることも可能となる。

★放送事業者に示唆

今回のデモは、放送機器を考える上でも示唆に富んだものとなった。

まず、液体冷却はサーバーへの適用が可能だ。クラウド化が進む時代とはいえ、オンプレミス（社内設置）のシステムは一定数ある。空気を介する熱伝導は効率が低く、液体経由であれば空調機を絞り電力消費を抑えられる。液冷化は、真剣に検討すべき事柄だ。

セキュリティーも、放送システムの安定動作に欠かせない。「基幹放送に関する技術基準等に係る申請の手引き」（第5版）では、外部からの侵入には言及しているが、システム全体を見渡す対策とは言いがたい。通信業界の取り組みは、放送業界にとっても参考になる事柄が多い。

セキュリティーでは、5Gネットワークのあらゆる場所での不正動作からシステムを守る「サイバーセキュリティー・ドーム」がデモされた。

昨今、ソーシャルエンジニアリングで獲得した関係者を使った「内部からの侵入」事例が多発している。デモでは、このような動作でも異常を検知し、的確な警告を発する様子が示された。もちろん、外部からの侵入に対しても強固な防御を見せる。

ルールに基づく判断と機械学習に基づく判断を併用したハイブリッドAIを用いており、変化する状況に対応する。

サイバーセキュリティー・ドームでは、システム内の装置製造業者が一様である必要はない。エリクソン、ファーウェイといった同業他社の製品からも状況報告を受け、異常を検知できる。

コンパクト ルーティングスイッチャ　Gen・元　12G-SDI・3G-SDI・AES/EBU

gen1616-12G-CP ・ gen1616-3G-CP ・ gen1616-AES-CP



コントロールパネル着脱可能。 最大16台のコントロールパネル接続可能。
全クロスポイントブランキング切換。 4/10/16分割マルチビューモニタリング出力。
12G，3Gにカラーバー出力。 AESにオシレータ出力装備。
サルボ，テイク，クロスポイントインヒビット，ソース/デスト インヒビット，パネルロック。
Webサーバー内蔵、ブラウザによる設定・制御・ステータス表示が可能。
SNMPによるリモート監視・制御。 プログラマブルなGPI/GPO機能装備。
3つのEthernetポート装備。 RS-232Cポートで他社コントロールパネル接続可。
完全フロントメンテナンス方式。(PAT.)
全機種リダンダント電源標準装備。

リファレンス入力・全クロス ブランキング切換。
ラストメモリ機能。
サルボ，テイク，クロスポイントインヒビット，
ソース/デスト インヒビット，パネルロック。
SNMPリモート監視・制御。
プログラマブルGPI/GPO機能装備。
リダンダント電源標準装備。



gen1616-12G-Plain ・ gen1616-AES-Plain

株式会社コスミックエンジニアリング　〒191-0065　東京都日野市旭が丘3-2-11　tel 042-586-2933（代表）　https://www.cosmic-eng.co.jp/　mail: c1000@cosmic-eng.co.jp

イメージニクス
12Gのマトリクススイッチャー
コンパクトで機能が充実



ISA-U1616

イメージニクスは、最大16入力16出力の12G―SDIマトリックススイッチャー「ISA―U1616」を発売した。96万8000円。

同機は12GまでのSDIやDVB―ASIに対応。12G―SDIと3G、HD、SDの混在入力ができる。

クロスポイントパターンメモリー機能により、最大32パターンをプリセットとして保存できる。読み出しの際に出力チャンネルを変更せず、現状維持のままとすることもできるため、モニター用途での利便性が高い。

また、優先設定した入力チャンネルが途切れた場合、あらかじめ指定した入力に切り替わる「チェンジオーバー」、128の切り替えポイントを、任意の時間と組み合わせて登録できる「シーケンシャル切り替え」（最大4パターン）、特定の入力チャンネルの割り当てを禁止し、意図しない設定への切り替わりを防止する「操作禁止設定」など充実した機能を備えている。

入出力は4系統単位で変更でき、4×16、8×8、16×4などの構成が可能。

標準で電源2重化に対応する。アラーム表示おしに出展される。

ISA―U1616は、7月28日―29日に開催される「ケーブル技術ショ

エーディテクノ
光ファイバーでUSBを伝送
100mまでの長距離転送に対応


A-Aケーブル

エーディテクノは、5類を発売する。ラインアップは、コネクタータイプA―A、A―B、A―microB、5Gbps専用光ファイバーケーブルシリーズから、8月26日に4種類。

USB3・2Gen1（USB3・0）専用製品で、5Gbpsまでデータ転送する。最長距離を採用光ファイバーケーブルでUSB延長ケーブルA―Aとなる。

同製品は、ガラス光ファイバーケーブルは光ファイバーと銅線のハイブリット構造とした。外径4・5ミリメートルの超細径で軽量。さらに許容曲げ半径20ミリメートルの柔軟性を実現した。

A―MicroBは、デバイス側コネクターに産業用で使われるUSB3Vision規格タイプを採用した。またケーブル部が繰り返し屈曲する設備への搭載を考慮し、摺動（しょうどう）屈曲試験機による2000万回往復試験をクリアした。メタル筐体を採用したコネクター部は電磁両立性に優れている。

市場想定価格は2万8600円から7万4800円。

池上通信機
テレビ神奈川からサブを受注
4K／HDスイッチャーが採用

池上通信機は、テレビ神奈川（tvk）から、第1スタジオのサブシステム（第1サブ）を7月に受注した。2023年3月に納入する。

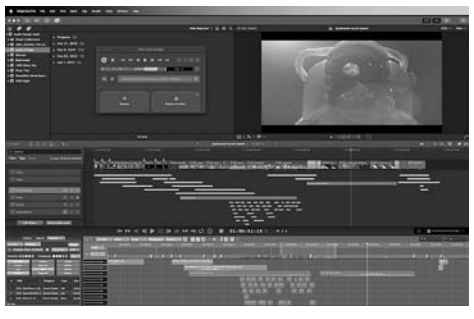
tvkは2022年4月に開局50周年を迎えた独立放送局。第1スタジオは情報、スポーツ、バラエティ番組などを制作する主力スタジオで、池上通信機は、4K／HD対応の新型スイッチャー「MuPS―5000シリーズ」を核としたシステムを提案した。

MuPS―5000シリーズは、3Uサイズのコンパクトな筐体ながら最大40入力×20出力を装備。4K／HDでの2M／E運用に対応するとともに、充実したキーヤー、リサイザー、フレームメモリーによりM／E数を拡張できる。

同時に採用されたルーティングスイッチャー「MuPS―4000シリーズ」は、オプションモジュールで機能を追加できる。今回は18分割のマルチビューワー機能を搭載することで、映像に加え時計、タリー、オーディオレベル、素材名称をモニターの分割画面上に表示し、モニター棚を省スペース化した。

機器の機能と運用性、アフターサービスを含めた信頼性が今回の採用につながったという。

タックシステム
映像に音声を簡単に追加
音声編集ツールを販売


Audio Design Desk

タックシステムは、Audio Design Desk（オーディオデザインデスク）の取り扱いを開始する。

オーディオデザインデスクはスタンドアロン型のオーディオ編集ソフトウエア。映像に効果音やフォーリー、音楽を素早く簡単に追加し、「プレミアプロ」や「ファイナルカットプロ」、「プロツールス」、「ロジックプロX」などのオーディオ・ビデオ編集ツールとシームレスに動作する。

ラインアップは、プロ向け高機能版「オーディオデザインデスクプロ」と、個人向けの「オーディオデザインデスクパーソナル」の2種類。

高機能のプロ版はAAFの書き出しができ、パーソナル版よりも多くのサウンドパックと広い使用権限を得られる。パーソナル版でも5万以上のロイヤルティフリーサウンドを利用できる。

市場予想価格は8万7780円と4万3780円（いずれも永続版）。それぞれのアカデミック版も用意している。

タックシステムは、オーディオデザインデスク製品の国内取り扱いを記念して、7月25日まで通常価格の30％オフで提供するスタートアップキャンペーンを実施している。

リーダー電子
クラウドデータサービスを開始
シグナルレベルメーター用に



LePorter



マップ表示の例

リーダー電子は、シグナルレベルメーター「LF965」用のクラウドデータサービス「LePorter（リポーター）」を発表。7月28日―29日に開催される「ケーブル技術ショー」に出展する。

同製品は、LF965で取得した測定データをスマートフォン経由でクラウドサーバーにアップロードし、データを保存・管理および報告書を自動作成する。従来、USBメモリーなどを介してPCでデータを集計し、報告書を作成していた時間を削減できる。

専用のスマホアプリとウェブアプリから操作する。スマホアプリはクラウドへの測定データのアップのほか、測定位置や気象情報の付与、使用機材、アンテナ設置情報などを記入できる。測定場所ごとにデータを分類して管理できるので検索、集計がしやすい。

iOSとアンドロイドに対応する。

ウェブアプリは、アップしたデータを日付やキーワードで検索可能。選択したデータから、エクセル形式で報告書を自動作成したり、アンテナ設置状況を地図上に表示したりする機能を備える。

8月からは、LF965ユーザーにトライアル版を無償で提供する。有償版のリリースは来年1月を予定。有償版では旧モデル「LF990」にも対応する。

トライアル版の申し込み方法は同社サイトやメールマガジンで案内する。

パナソニック コネクト
「クールジャパン」の取組で表彰
舞台作品でプロジェクターが活躍


he Life of HOKUSAI

パナソニック コネクトは、クールジャパン官民連携プラットフォーム「クールジャパン・マッチングアワード2022」を受賞した。受賞対象はグローバルビジネスラボ（GBL）制作の舞台芸術作品「The Life of HOKUSAI」となる。

同作品では、パナソニックの2万ルーメン3チップDLP 4Kプロジェクター「PT―RQ22KJ」で舞台背景を投映。高輝度映像と正確な色再現でシーンに合わせてコンテンツを変え、北斎を演じる役者との共同演出を可能にした。

舞台芸術とテクノロジーがコラボレーションし、最新のプロジェクションマッピング技術によって造作物の入れ替えなどを最小限にした効率的な舞台運営と、日本有数の有名な画家の半生を効果的に描いたことなどが評価された。

同作品のエグゼクティブプロデューサー杉本伸氏は「この作品は北斎の実物原画のデジタルデータを使用しており、色彩の微細な再現性と役者、映像によるプロジェクションライブ演出の現場理解が重要。演出家の意図をよく理解し技術協力してもらった」とコメントしている。

WOWOWが定例会見

映画とリアルイベント発表

WOWOWは7日、定例会見を開き、最新の加入状況、コンテンツビジネスなどについて発表した。冒頭、田中晃社長は、6月22日に実施された株主総会で同社が監査等委員会設置会社に移行することが承認され、監査等委員の取締役、それ以外の取締役が専任されたことを報告。「新たな気持ちで取り組んでいく」と述べた。

池井戸潤の小説を映画化

2022年度第1四半期の加入件数は7万3109件の減少で、6月末時点の累計正味加入件数は260万7302件となった。

カスタマエクスペリエンス担当常務の郡司誠至氏は「サッカーの欧州チャンピオンズリーグやLPGA女子プロゴルフツアー、テニスの全仏オープンなどが新規加入を促進したが、サッカーを中心とする目的番組終了に伴う解約が大きく影響した」と述べた。


大重氏

今回、映画とリアルイベントについて発表した。映画は、WOWOWフィルムズ（WOWOWが主幹事となって公開する作品の総称）の『アキラとあきら』。池井戸潤の同名小説を映画化するもので、竹内涼真、横浜流星が主演する。8月26日から全国公開。

原作の小説『アキラとあきら』は池井戸潤が雑誌に連載していたもので、WOWOWは2017年に同連載をベースにドラマ化している。ドラマ化と並行するかたちで、池井戸が加筆修正して書籍化しているが、映画では書籍をベースにし、ドラマとは主軸が変わっており、監督、脚本、キャストも一新している。

リアルイベントでは2つのミュージカルを発表した。1つは、自社初のブロードウェイミュージカル日本語版制作。これは『ジャニス』という作品で、27歳で世を去った伝説のロックスター、ジャニス・ジョプリンの音楽人生を描く。米国では『ナイト・ウィズ・ジャニス・ジョプリン』の題名で公演された。

ジャニス・ジョプリン役は、BiSHのアイナ・ジ・エンド。彼女の人生に大きな影響を与えるアレサ・フランクリン役のUAをはじめ、藤原さくら、浦嶋りんこ、緑黄色社会の長屋晴子らが出演。総合プロデューサーを、東京事変のベースプレイヤーで音楽プロデューサーの亀田誠治が務める。同氏もバックバンドでステージに立つ。

公演は8月23、25、26日、東京国際フォーラムホールA。

WOWOWの担当である事業部プロデューサーの大重直弥氏は、ジャニス・ジョプリンという独特のハスキーボイスの持ち主を誰にするか、また彼女を取り巻くシンガーもブルース、フォークなどのレジェンドで、それを表現できるのは誰なのか、それを決めることにかなりの労力を要したという。

アイナ・ジ・エンド、UA、藤原さくら、長屋晴子はミュージカル出演が初めてで、彼女らが不安なく挑めるよう、役の特徴や、やってもらいたいことを丁寧に説明。「結果として、かなり良い作品が出来上がってきている」と述べた。

事業担当常務の水口正彦氏は「チケット販売は好調でリクープも見えている」という。

もう1つが『ディズニー・ブロードウェイ・ヒッツ fest・アラン・メンケン』。ブロードウェイのディズニーの名曲の数々を生み出したアラン・メンケンが来日。2部構成のミュージカルで公演は7月26日―28日の予定だったが21日、メンケン氏のコロナ陽性反応が確認され延期を発表した。

ブロードウェイミュージカル
自社初の日本語版を制作

スターキャット・ケーブルが運用開始
先端無線技術の実証施設
ローカル5Gなどの体験可能

スターキャット・ケーブルネットワーク（名古屋市中川区／以下、スターキャット）は20日、「ローカル5G等の先端無線技術を体験できる実証施設」を名古屋市西区の「なごのキャンパス」に構築し、サブ6帯を利用した実証環境の運用を開始した。実証環境は気軽に体験できる施設として、広く開放していく。

27―29日には、ポートメッセナゴヤ（名古屋市港区）で開催される「第2回 Japan IT Week 名古屋」（主催：RX Japan）に出展し、今回の実証実験に関連した展示をする。

また9月1日には、なごのキャンパスと連携してスタートした「なごのキャンパス先端無線実証プロジェクト」の一環となる。

施設には、サムスン電子のローカル5G基地局設備を採用し、京セラコミュニケーションシステム、三技協の支援を受けて構築した。今後、高画質映像伝送やXR、ドローン、自動運転などの実証を計画している。

地域の防災・減災
NHK松山と連携
愛媛県CATV協議会

愛媛県CATV協議会とNHK松山放送局は、それぞれの連携を強化し、非常災害時により多くの人の生命、暮らし、財産を守る情報を伝えることで、地域の防災・減災を目的として「防災・減災における連携協定」を締結した。

同協定に基づき、双方の窓口が普段から情報交換などをすることや、双方が撮影した映像や情報を共有する仕組みをつくり、活用することなどで連携を図る。

BKtel Pacific Rim Inc.

猛暑が続いてます。
その機器フリーズしてませんか？

暑さに強い
広温度範囲対応ネットワーク機器

動作温度範囲 -40 ～ 75℃


有線ルーター


L2 アンマネージドスイッチ

動作温度範囲 -30 ～ 85℃


死活監視ユニット
（PING 監視）


死活監視ユニット
（ 接点監視）

BKtelパシフィック・リム株式会社 神奈川県横浜市中区蓬莱町 1-2-8 勝幸ビル 5 階
TEL：045-350-5447　FAX：045-350-5460

https://www.bktel-pacrim.com

SDI入力監視機能で長期安定運用
省スペースを実現するVbusモジュール



専用パネルから信号の有無を確認
IN PUT 入力信号断時にボタンが消灯
OUT PUT 入力信号断時にボタンが点滅

Webserverで監視・ログ機能
■SNMPで信号の状態を監視
■異常時には筐体からトラップ発報
■ログ表示機能

12G対応 マトリックススイッチャー

他モデルとも混在可能で、様々な用途に使えるVbusモジュール式

12G対応32×32マトリックススイッチャー NEW
MTX-70U-3232 IN 32 OUT 32 3 slot use
希望小売価格 1,600,000円（税別）

12G対応16×16マトリックススイッチャー
MTX-70U-1616 IN 16 OUT 16 2 slot use
希望小売価格 1,100,000円（税別）

ネットワーク接続による遠隔操作が可能な1バスパネル

32×1 1バスモニターセレクトパネル NEW
MTX-70UP-321 希望小売価格 180,000円（税別）

16×1 1バスモニターセレクトパネル NEW
MTX-70UP-161 希望小売価格 170,000円（税別）

用途に応じて選べる12G対応のVbusモジュール Vbus

■12G対応チェンジオーバー	CHO-70U NEW	■12G対応UHDアップコンバーター	HUC-70U
■12G対応マルチ素材ジェネレーター	MMG-70U NEW	■12G対応UHDダウンコンバーター	UHC-70U
■12G対応シグナルジェネレーター	SG-70U	■12G対応クワッドリンクコンバーター	UHX-70U
■12G対応タイムロゴジェネレーター	TLG-70U	■12G対応音声マルチプレクサー	MUX-70U
■12G対応フレームシンクロナイザー	FS-70U	■12G対応音声デマルチプレクサー	DMX-70U
■12G対応ラインシンクロナイザー	AVDL-70U	■12G対応SDI信号分配器（2CH対応）	DDA-70U
■12G対応16×8マトリックススイッチャー	MTX-70U-168	■12G対応ビデオタイマー	VT-70U
■12G対応8×8マトリックススイッチャー	MTX-70U-88	■12G対応2chカラースーパー	CK-70U
■12G対応4×2マトリックススイッチャー	MTX-70U-42		

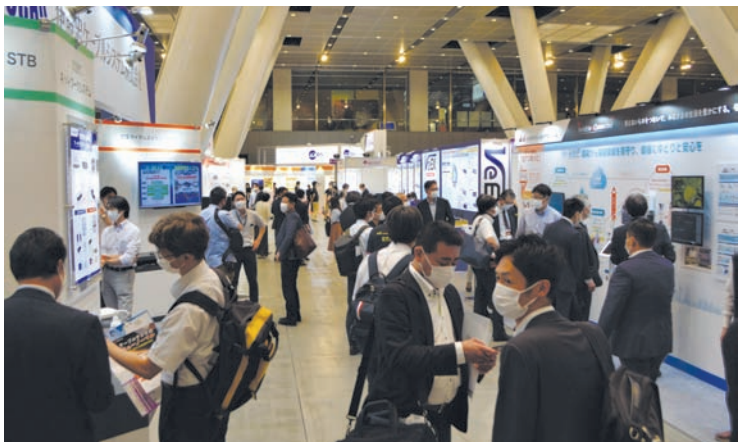
ビデオトロン株式会社 http://www.videotron.co.jp e-mail:sales@videotron.co.jp
本社営業部 TEL：042-666-6311 FAX：042-666-6319 / 大阪営業所 TEL：06-6195-8741 FAX：06-6195-8742

ケーブルコンベンション2022関連イベント

ケーブル技術ショーが開催

自治体関係者向け展示を充実

日本ケーブルテレビ連盟、日本CATV技術協会、衛星放送協会の3団体は、CATV業界の総合コンベンション「ケーブルコンベンション2022」の関連イベントである「ケーブル技術ショー2022」を東京・丸の内の東京国際フォーラムで7月28、29日に開催。最新の製品・ソリューションが一堂に集結する。リアル展示会に先駆け、13日からオンライン展示会も実施しており、双方の特徴を生かした新時代の展示会を展開する。地域DX（デジタルトランスフォーメーション）をテーマとした新規の出展ゾーンも注目される。



最新の製品・ソリューションが一堂に集結する（写真は昨年のケーブル技術ショー）

ケーブル技術ショーの展示会には74社（70ブース）が出展する（うち、2社はオンライン展示会限定出展）。新規の出展は11社になるという。会場は「トータルソリューション」「テクノロジー」と新規の「地域DX」の3ゾーンに分けられる。

トータルソリューションでは、ヘッドエンド系、伝送系、ソフト、制作系、CPS／IoT、部品など、CATV技術の最前線が見える製品・技術・サービスがそろう。

地域DX・ゾーン（5ブース+8企画ブースは、「自治体」や「農林水産業・観光・ホテル・学校」などが抱える社会問題を解決する、ソリューションや実証事例を展示。

企画ブースのテーマは『ローカル5G、IoT、地域創生』。射水ケーブルネットワーク、となみ衛星通信テレビ、愛媛CATV、ZTV、地域ワイヤレスジャパン、沖縄ケーブルネットワーク、J:COM、イッツコミュニケーションズ、Goolight、えんがわケーブルテレビ、日本ケーブルラボ、IPTVフォーラム。

テクノロジー・ゾーンでは、ヘッドエンド系、受信端末系、伝送系、ソフト、制作系、CPS／IoT、部品など、CATV技術の最前線が見える製品・技術・サービスなどを展示。

（プラットイーズ）が出展し、最新のサービスや事例などを伝える。

主催者テーマ展示コーナー（5ブース）では、映像配信、運用保守、サービスに関する次世代ケーブル技術の解説や、放送・通信連携サービス、新4K8K衛星放送受信技術関連に加えて、ケーブル網の無電柱化対応など、CATV技術の最新動向を分かりやすく説明する。

出展者は、NHK放送技術研究所、放送サービス高度化推進協会／日本CATV技術協会、日本ケーブルテレビ連盟／日本CATV技術協会、日



地域の防災情報発信にCATVは重要な役割を担う

技術展示会の開催期間中に会場に来場できない場合は、リモート商談機能を活用できる。公式ウェブサイトから会場の出展者とビデオチャットでつながり、展示内容を見ることが可能だ（同機能を利用する出展者に限る）。

「地域DX」や、「防災・減災」に関連したソリューションがそろう出展ブースを訪問する、自治体関係者向け会場内ツアーをリアル展示会の会期中に実施。

また、展示会場に隣接するセミナールームでは、22講座の「技術セミナー」が開かれる。業界の最前線や出展各社による最新の製品、サービス、ソリューションを発表する（事前登録制）。

【ケーブル技術ショー2022】技術展示会 出展者 一覧

出展者名	出展エリア
ＮＥＣネッツエスアイ	A
関電工	A
ジャパンケーブルキャスト	A
シンクレイヤ	A
住友電気工業	A
日本デジタル配信	A
パナソニック　コネクト	A
華為技術日本	A
古河電気工業	A
ミハル通信	A
APRESIA Systems	B
アリスタネットワークスジャパン	B
伊藤忠ケーブルシステム	B
伊藤忠ケーブルシステム／アイテック阪急阪神	B
イメージニクス	B
Vecima Solutions	B
SCSK	B
X-one Technologies	B
NTTエレクトロニクス	B
北村製作所	B
クロスイメージング／気象サービス	B
サン電子	B
JPNAP/IIJ	B
ジュニパーネットワークス	B
JOHNAN	B
スターデジタル通信	B
ソニーネットワークコミュニケーションズ	B
ダイコー通産	B
大電	B
THK	B
ＤＸアンテナ	B
DTSインサイト	B
ティーブイエスネクスト	B
データコントロルズ	B

出展者名	出展エリア
データブロード	B
東亜ソフトウェア	B
東京電機産業/VIAVIソリューションズ	B
東神電気	B
トラフィック・シム	B
日本アンテナ	B
日本インターネットエクスチェンジ	B
ニューメディア	B
ネクストキャディックス	B
ネットセーブ	B
ノキアソリューションズ&ネットワークス	B
バッファロー	B
VeEX/メインテクノロジー／イスミ設備設計	B
ビデオトロン	B
BBIX	B
フォーティネットジャパン	B
朋栄	B
マスプロ電工	B
三菱電機	B
MEDIAEDGE	B
リーダー電子	B
Ruijie Networks Japan	B
ロジネットサービス	B
サテライトコミュニケーションズネットワーク	C
東洋紡エンジニアリング	C
日本ソフト開発	C
ハイウエアエクサ	C
ブレーンズ・システム	C
NTTSportict	S
ガンスイ	S
中京エレクトロン	S
フジクラ	S
まほろば工房	S
RIEDEL Communications Japan	S

※出展エリア「A」（プラットフォーム・総合）、「B」（ヘッドエンド系・　受信端末・伝送系）、「C」（ソフト・制作系・CPS/IoT・部品など）、「S」（伝送系）

オンライン展示会限定出展 出展者 一覧

出展者名	出展者名
日本ワムネット	富士通ネットワークソリューションズ



特　集

ケーブルコンベンション関連イベント
ケーブル技術ショー
Cable Tech Show 2022

CATV技術の進化が原動力
地域DX推進の役割を担う

日本ケーブルテレビ連盟は11日、「ケーブルコンベンション2022」および「ケーブル技術ショー2022」に関する記者説明会を開いた。ケーブル技術ショー2022の開催要旨は、日本CATV技術協会の内田茂之理事長が説明した。

「今回の開催コンセプトは『The future starts today ～地域を生かす、未来をつくる、ケーブル原動力～』である。これには〝CATV技術の進化が地域の原動力になる、地域の未来・CATVの未来は、ここから始まる〟という意味が込められている」と強調した。

技術展示会（リアル展示会）に先立ち、13日から始まったオンライン展示会は、技術展示会への来場動機につなげることを目的に実施したという。

このように昨年に引き続き、リアルとオンラインのそれぞれの特徴を生かした、ハイブリッド型の展示会として展開する。特に今回は、地域DXによって広がるビジネスターゲットである自治体関係者や農林水産業関連、医療・福祉、観光などのステークスホルダーにも最新の技術・サービス、ソリューションを訴求する。

内田氏は「CATVは地域インフラの基盤として、人々の生活はもとより、地方行政、企業活動において幅広く活用が期待され、『地域に根付き地域を支える存在』から『地域におけるDX推進』の役割を担い、〝新しい未来、新しい日常を実現する、地域を生かす原動力〟となっている。CATV業界を技術面からバックアップし、業界の発展に貢献する最新の技術やソリューションなどを提案する国内最大級の展示会である『ケーブル技術ショー』へ、多くの人が来場することを期待している」と述べた。


日本CATV技術協会
内田理事長



オンライン展示会商談ツール（来場者から見た画面）のイメージ

オンライン展示会も実施

7月13日から開始している「オンライン展示会」では、パネルや1分間PR動画などを掲載し、より具体的な情報を公開。リアル展示会へのより確かな来場動機につなげているという。

8月17日からは「VRブース」を設ける。ここでは、360度カメラで撮影された会場内をストリートビューで探索できるほか、各出展者ブースではパネルや動画の閲覧が可能。また、各種チャットや名刺交換機能も使いやすくなっている。

オンライン商談ツールも導入。出展者の待機画面では、リアルタイムで来場者がアイコンで表示される。アイコンをクリックすることで、来場者の「会社名」「氏名」「業種（バッジカテゴリー）」を確認できる。

出展者が待機している場合は、来場者側の画面では商談ツールが表示。各ボタンをクリックすることで出展者とリアルタイムでオンライン商談ができる（出展者が離席中の場合は、コールバックと名刺交換ボタンのみが表示される）。

また、テーマ別動画ツアーも提供。各テーマに沿ってオンライン上で出展者ブースを訪問し、最新の製品、サービス、ソリューションの内容を分かりやすく説明する。

ツアー内容は「4K8K最先端ケーブル技術」「次世代高速通信・大容量化関連」「防災・減災ソリューション」「地域DXソリューション」となっている。

【詳細・オンライン展示会】 www.catv-f.com

【ケーブルコンベンション関連イベント】

◆第15回ベストプロモーション大賞贈賞式＝さまざまな地域のコミュニケーション活動に対し、認知向上と各社の活動内容の共有を目的に、優れたプロモーションや施策を表彰する

【日時】 7月28日／10時30分―12時30分（ケーブルコンベンションの式典内）

【会場】 東京国際フォーラムホールB5

◆情報交換会

【日時】 7月28日／17時30分―19時

【会場】 東京會舘本館（東京・丸の内）

【参加費】 1万円

◆ケーブルテレビ×映画・ドラマ＝地域プロモーション＝CATV事業者が映画やドラマの製作にチャレンジして地域に貢献する事例や、映画コンテンツを活用して地域ビジネスにつなげる事例の数々を披露する。事前の申し込み不要

【日時】 7月29日／12時―17時30分

【会場】 東京国際フォーラムホールD1

▣ケーブルコンベンション2022

【会期】 7月28、29日▽オンライン展示会＝7月13日―9月16日▽アーカイブ展示会＝9月16日―2023年6月上旬

【会場】（リアル会場）東京国際フォーラム／ホールE

【詳細】 www.catv-conv.jp

▣ケーブル技術ショー2022

【会期】 ▽リアル展示会＝7月28、29日▽オンライン展示会＝7月13日―9月16日▽アーカイブ展示会＝9月16日―2023年6月上旬

【会場】（リアル会場）東京国際フォーラム／ホールE

【詳細・オンライン展示会】 www.catv-f.com



特集

ケーブルコンベンション関連イベント
ケーブル技術ショー
Cable Tech Show 2022

SCN
新開発のコミネット専用端末
自由で多彩なレイアウト表示

サテライトコミュニケーションズネットワーク（SCN）は、新開発のコミネット専用端末「Force（フォース）」を展示する。

「Force」は、マルチレイヤー構造による自由で多彩なレイアウトで表示が可能。αチャンネルに対応し、津波MAPや河川水位情報などを掲出できる。また、止めテロップやスクロールテロップの混在表示により、SCNが提供する緊急情報や防災情報、災害速報と合わせ避難情報を視聴者に分かりやすく伝達することが可能。

災害発生時には、自動ウェザー上から操作が可能。L字タイトルを任意テキストで掲出でき、いつでもどこからでも情報登録や更新が可能となっている。

さらに、コミネットサービスの特徴である放送状況監視、システム保守をSCN映像センターにおいて一元的に実施することで、CATV局の緊急情報の運用負担を大幅に軽減。大災害や緊急時には、これらのシステムやサービスを最大限に生かして、BCP（事業継続計画）支援をする。



Forceによる表示例

ミハル通信
最先端ソリューション
6つの展示コーナーで実演

ミハル通信は、ブース内に6つの展示コーナーを設置、RFからIP、FTTHシステム、保守サービスまで、CATVの最先端ソリューションを実演する。

同社では『極超低遅延映像伝送システム』として、既に「ELL8K」を発売しているが、そのコンセプトを引き継いだ4K極超低遅延エンコーダー「ELL Lite」を参考展示する。展示コーナーでは、実際に4Kカメラの映像の伝送前と伝送後の映像を比較して体感できる。

高度ケーブル自主放送システムでは、ハイブリッドキャスト、動画配信プラットフォームを使った地デジ自主放送ソリューションなど、IPとRFを融合したシステムを提案する。

ダイバーシティ地デジシグナルプロセッサーも展示。フェージング対策に最適な同製品を導入するCATV事業者が増えており、ブースでは実機を使ったデモ展示をし、新たに追加されたログ解析オプション、MFN受信機能などについて説明する。

FTTH関連製品としては、PON-OLT、PON-ONU、光ファイバー増幅器、新製品のAC100V屋外型光受信器などを展示。そのほか、M-3（エム・トリプル）保守サービスなどを出展する予定。


高度ケーブル自主放送装置

イメージニクス
12G-SDI対応製品を展示
多様な新機能を追加

イメージニクスは、12G-SDIに対応したマトリックススイッチャー「ISX-U3232」「ISA-U1616」を出展する。

標準で電源二重化、操作パネルの搭載など従来の機能を踏襲しつつ、さらに新たな機能として、禁止クロスポイントの指定、任意の出力チャンネルに対して任意の入力チャンネルを指定した時間で自動切り換え（シーケンシャル機能）、プリセットメモリーの部分適用（サルボ機能）、入力信号喪失時の自動切り換え（チェンジオーバー機能）などを搭載した。

そのほかにも、SDI用ケーブルイコライザーとして使用可能なSDI2分配器「ISD-U12」、4K HDMI信号が9系統自由レイアウト可能なマルチビューワー「HEV-U91」、4K HDMI+USB2・0信号をLANケーブル1本で伝送する「CRO-UHE30TX/RX」、4K HDMI信号を10Gbイーサネットを利用して長距離伝送・切り替え・分配・マルチビュー・ビデオウォールなどを実現する「NEX-SMARTシリーズ」などを展示する。

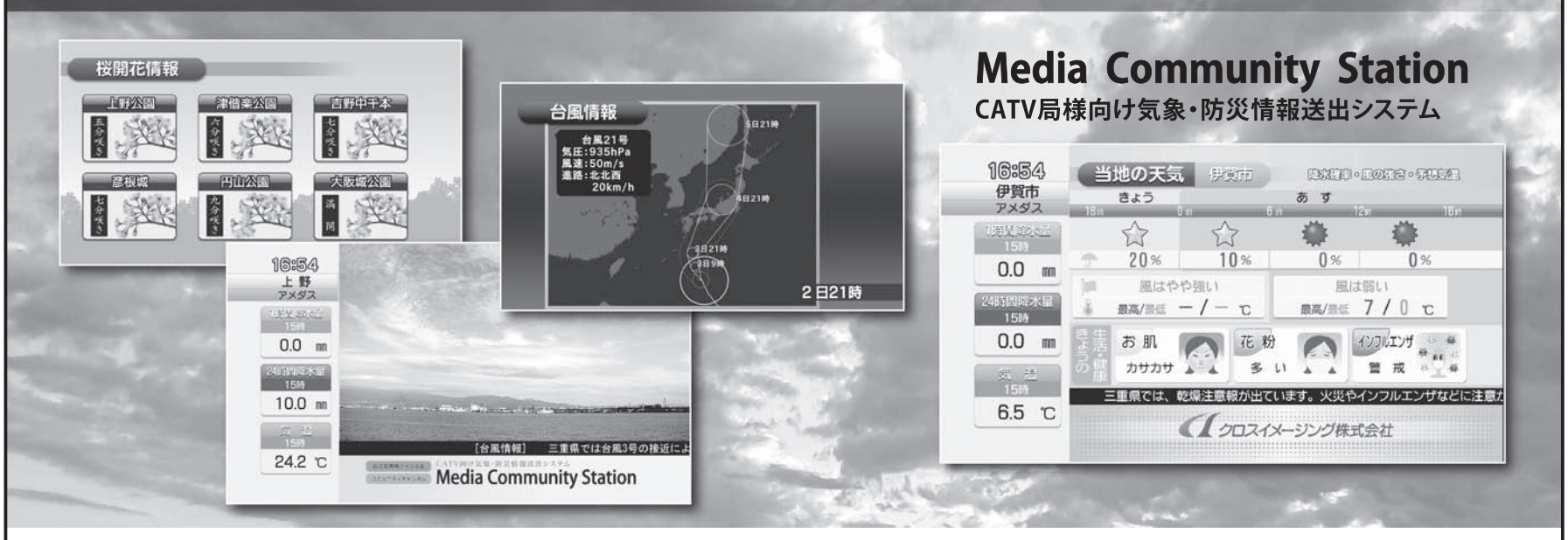


ISA-U1616

緊急地震速報、防災情報、気象情報の
リーディング・システム・インテグレーター

Cross Imaging

24時間自動放送可能なお天気チャンネル向けシステムをご提供。
地域に密着した、分かりやすいお天気情報をお届けします。



ケーブルコンベンション関連イベント
ケーブル技術ショー
Cable Tech Show 2022

技術展示会：東京国際フォーラム ホールE
2022.7 | 28(木) 29(金)
クロスイメージング株式会社／株式会社気象サービス 共同出展 ブースNo.B-28

クロスイメージング株式会社
〒141-0031 東京都品川区西五反田1-5-1 A-PLACE五反田駅前9F
TEL.03-6417-9190(代表) FAX.03-6417-9195
http://crossimaging.jp/

クロスイメージング
気象・防災情報を送出
多様なコンテンツそろえる

クロスイメージングは、ｔａｔｉｏｎ」を、コミュニティチャンネルや天気専門チャンネル向けの気象・防災情報送出システム「Ｍｅｄｉａ Ｃｏｍｍｕｎｉｔｙ Ｓ



防災情報送出システム

象・防災データを受信・解析・作画し、ＨＤ画質での放送画面を送出するところまで1台のＰＣで実行。当地の天気や週間天気といった一般気象情報に加え、洗濯情報、行楽地の天気など多様な気象コンテンツを取りそろえ、地域に密着した分かりやすい情報を視聴者に届けることができる。

同システムは、気象サービスから配信される気象データを受信・解析・作画し、ＨＤ画質での放送画面を送出するところまで1台のＰＣで実行。当地の天気や週間天気といった一般気象情報に加え、洗濯情報、行楽地の天気など多様な気象コンテンツを取りそろえ、地域に密着した分かりやすい情報を視聴者に届けることができる。

防災コンテンツも警報注意報や地震情報など多種用意し、入電した際に自動割込み表示をする。台風接近時は台風情報中心の番組編成に自動で切り替わり、災害時の素早い情報伝達にも貢献する。

外部映像との合成も可能で、スーパーやＬ字の画面も標準装備。各画面やテロップ、広告をスケジュールに従って切り替える機能により、無人で運用することができる。

昨年新たに「音声喚起機能」を発表。防災情報発令時の聴覚的な呼びかけを可能にし、より確実な情報伝達を実現する。

24時間365日対応の保守体制や、自社開発のＨＤ－ＳＤＩリアルタイム入出力ボードを用いることで高速かつ安定したシステム稼働を実現し、既に40局以上の運用実績を誇っている。

ビデオトロン
4K L字表示システム
Vbusモジュールで構築

ビデオトロンは、多方面で活躍可能なＶｂｕｓモジュール・ミニボックスの新製品を披露する。

「ＬＭ－７０Ｕ」は、４Ｋ Ｌ字システムをＶｂｕｓモジュールで構築する。ライン映像とバックグラウンド映像をＬ字合成。静止画、テキスト出力可能な「ＭＭＧ－７０ＵＳ」との連携に対応し、オプションパネル、接点からプリセットパターンの連動切り替えができる。モジュール式のため、スペースメリット、メンテンス性に優れている。



LM-70U

12G対応AES出力付きＳＤＩ ｔｏ ＨＤＭＩコンバーター「ＳＨＭ－２０Ｕ－Ａ」は、12G－ＳＤＩを民生ＨＤＭＩモニターでプレビューし、入力のＳＤＩに重畳されている16chのエンベデッドオーディオをＡＥＳ／ＥＢＵ出力が可能。

前面ＬＥＤで入力の有無、ＣＲＣエラーなどの各種ステータス監視に対応する。

朋栄
自主番組制作を効率化
12G-SDIキャラジェネなど

朋栄は、ＣＡＴＶの番組制作を効率化する最新製品・ソリューションを訴求する。

12G－ＳＤＩキャラクタージェネレーター「Ｅｚ－４１０」は、標準構成でＨＤ２系統、または４Ｋ１系統のテロップ送出が可能。２系統へのＨＤ同時送出、１系統ＨＤ送出・別系統作画プレビュー、１系統４Ｋ送出と、フレキシブルな運用ができる。統合ソフトウエア「Ｔｅｌｏｐｓｔａｔｉｏｎ」を標準搭載し、ＶＷＳシステム（テロップシステム）とのデータ完全互換を実現。


LTS-80

ＬＴＯサーバー「ＬＴＳ－８０」／素材ファイル管理ソフトウエア「ＬＴＳ－ＭＡＭ」は、最大転送速度３００ＭＢ／秒（２・４Ｇｂｐｓ）のＬＴＯ８ドライブを搭載し、４Ｋ時代に求められる大容量のアーカイブやバックアップをサポート。最大記憶容量12TB（非圧縮時）のＬＴＯ８テープにデータ保存ができる。

「インターネット配信支援システム「Ｐｒｉｓｍ２」（朋栄ＩＢＥ）は、オンエア映像のオンデマンド配信向けコンテンツ作成・アップロード支援や、オンエア前のダイジェスト映像切り出し支援・ＳＮＳへのアップロードが可能なターンキーシステム。ＳＮＳ向け・インターネット配信向けコンテンツの作成を、カット編集／フォーマット変換／コンテンツ管理／コンテンツ配信の各機能で支援する。

特　集
ケーブルコンベンション関連イベント
ケーブル技術ショー
Cable Tech Show 2022

ケーブルテレビ事業者のみな様へ
地域コンテンツを有効活用して
ケーブルテレビのビジネスを
アップデートする
株式会社ニューメディアでは、
ケーブルテレビ事業者が持つ豊富な地域コンテンツを活用した
様々な配信ソリューションをご提案いたします。
コンテンツ配信に関するお悩みは、ぜひ一度ご相談ください。
地域コンテンツ
コネクテッドTV
ロコテレ動画
全国のケーブルテレビ局による
コンテンツ配信プラットフォーム
顧客満足度向上
CP²
Contents Player for Communication Platform
BtoB BtoG
mirune
デジタルサイネージシステム
コミチャンからシームレスに立ち上がる
VOD ハイブリッドキャスト配信システム
ケーブル技術ショー 2022 に出展します
生活様式が大きく変わりゆく昨今、様々な課題を解決する
上記３つのコンテンツ配信システムをご体験いただけます。
皆様のお越しを心よりお待ちしております。
ケーブル技術ショー 2022
技術展示会　７月28日（木）～７月29日（金）
東京国際フォーラム　B2F　ホールＥ　ブースNo.B-01
サービス実証参加局募集中
ロコテレ動画
NCV NIKO NIKO CABLE TV
株式会社ニューメディア　システム開発部
〒992-0044　山形県米沢市春日四丁目2-75
☎ 0238-24-2525　✉ system-development@ncv.co.jp

NEW RELEASE
《新製品》
コミネット専用端末 Force
コミネットサービス　新規開発のL字端末＆CMS
台風21号 接近中
台風21号の北上に伴い鳥取県も暴風域に入る
SCN
9/5(月) 7:30
街路樹が倒れ、車両が横転するほどの風雨に見舞われています。川の水かさも増えています。
自由で多彩なレイアウト
止めテロップαチャンネル対応
L字タイトルを任意で変更可能
出展します
ホールE
ブースNo. C-03
ケーブルコンベンション関連イベント
ケーブル技術ショー
Cable Tech Show 2022
技術展示会　東京国際フォーラム
2022年 7月28日(木)・29日(金)
オンライン展示会　公式ウェブサイト
2022年 7月13日(水)～9月16日(金)
SCN Satellite Communications Network
株式会社サテライトコミュニケーションズネットワーク
https://www.sc-net.ne.jp
【本　社】〒683-0801　鳥取県米子市新開2-1-7
0859-32-6103　0859-22-8160
info@sc-net.ne.jp

特集

ケーブルコンベンション関連イベント
ケーブル技術ショー
Cable Tech Show 2022

ニューメディア
番組配信プラットフォーム
地域コンテンツを有効活用

CATV事業者のニューメディアは、「ロコテレ動画」などのコンテンツ配信ソリューションを出展。CATV局独自で保有しているコンテンツの有効活用による、顧客接点の創出や加入促進など、さまざまな課題の解決を提案する。

「ロコテレ動画」は、全国のCATV局が参画する配信プラットフォームで、アンドロイドTV、iPhoneアプリ、FireTVで動く。各地のCATV局が全国の視聴者に地域コンテンツを届けるというコンセプトにより、7月時点で26社のCATV局が参加している。これにより、エリア外への配信やコネクテッドTVへの配信により新たな顧客接点の創出が図られる。また、加入者限定コンテンツを用いた加入促進や満足度向上も狙える。



「ロコテレ動画」の画面

ハイブリッドキャスト配信システム「CP2」は、コミュニティチャンネルからシームレスにVODを起動することができる配信システム。

デジタルサイネージ配信システム「mirune」は、STBをつなぐだけで使えるCATVならではのシステム。SNSの投稿や施設の利用予定から、サイネージに表示するスライドを自動で生成する機能がある。

リーダー電子
レベルメーターで測定したデータの管理業務サポート

リーダー電子は、レベルメーターで測定したデータの管理業務をサポートする新しいサービスを提案する。また、クラウドを用いて、いつでも手軽にビデオファイルのコンテンツをチェックできるファイルコンテンツチェッカー「GLADIAS（グラディアス）」を参考出品し、デモを実施する。



LF965

シグナルレベルメーター「LF965」は、国内における高度広帯域衛星デジタル放送（4K／8K放送）、衛星デジタル放送（2K放送）、および地上波／CATVデジタル放送に対応する。

クラウドデータサービス「LePorter（リポーター）」は、LF965で取得した測定データをスマートフォン経由でクラウドサーバーにアップロードし、データを保存・管理および報告書の自動作成ができる。従来はUSBメモリーなどの媒体に取得データをコピーし、PCでデータ集計や報告書を作成していた作業時間を大幅に削減可能。専用スマートフォンアプリとウェブアプリを使用して操作する。

伊藤忠ケーブルシステム
効率的な制作システム提案
共有ストレージやアーカイブ

伊藤忠ケーブルシステムは、CATVネットワークシステムソリューション、ワイヤレスソリューション、制作向けトータルワークフローなどを訴求。アイテック阪急阪神との共同出展ブースでは、同社と共同開発した顧客管理システム「i-PLAT」を展示する。

CATVネットワークシステムソリューションとしては、NOKIA社XGS-PON（10G-PON）関連の製品、2・5Gと10Gサービスの並行運用が可能な「MultiPONモード」をデモする。


Facilis社製共有ストレージ

集合住宅向けソリューションは、同社取り扱いの同軸HCNAと、SMS連携を可能とするHCNAプロビジョニングツールをそろえる。

また、一般的なNASでは難しい帯域監視や容量管理など、効率的な制作システムを提案し、XendData社製アーカイブシステムへのシームレスなデータ移行を披露する。

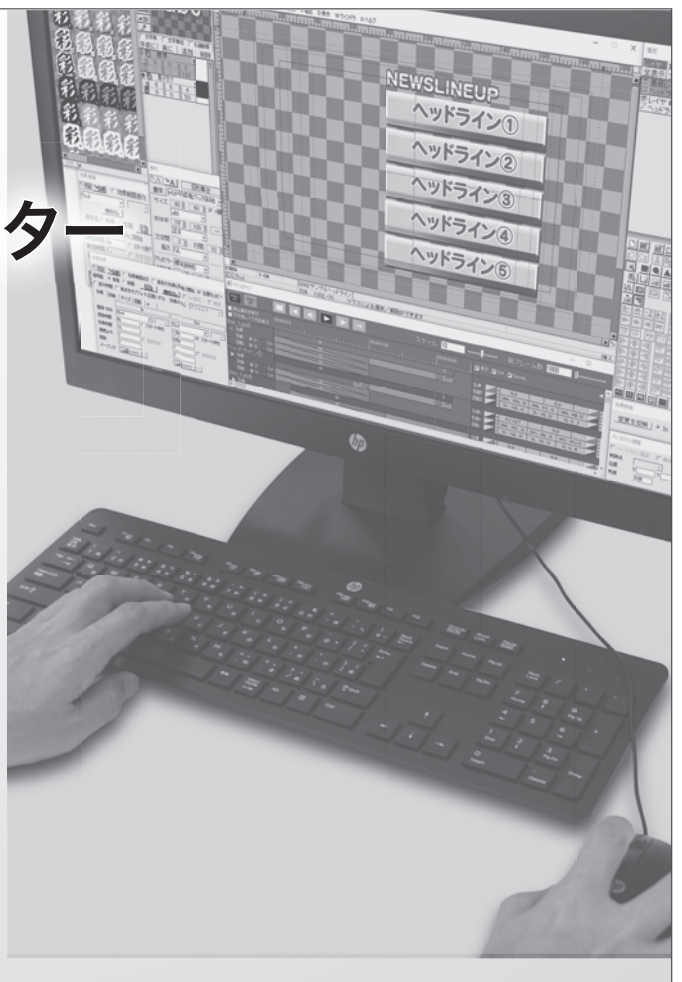
Facilis社製共有ストレージは、複数のプラットフォームからビデオ、オーディオファイルにアクセスすることを想定して設計されており、サードパーティー製のソフトウエアやユーザー数に応じたライセンスを購入することなく、異なるOSから同一ボリュームに書き込みができる。

XendData社は、メディアおよびエンターテイメント市場に特化した米国のファイルアーカイブメーカー。ウィンドウズ・ファイルシステムを利用した独自のキャッシュ技術と幅広いライブラリー対応が評価されている。

シリーズ累計1,100台突破!

進化を続けるキャラクタージェネレーター
EzV-410登場





▶ 標準構成でHD 2系統、
または4K 1系統のテロップ送出が可能

▶ スポーツコーダ、選挙ソフト、L字・速報、
Twitter連携などのアプリケーションを用意

キャラクタージェネレーター EzV-410

製品紹介はこちら

株式会社 朋栄 www.for-a.co.jp
Tel: 03-3446-3121 I E-mail: ad@for-a.co.jp

ケーブルコンベンション関連イベント ケーブル技術ショー Cable Tech Show 2022 | 2022年7月28日-29日 ブース No.B-32

FOR-A

表技協が「第5回 羽倉賞受賞記念講演会」

前年度の受賞技術について解説

360度映像比較再生システムなど

最先端表現技術利用推進協会（表技協／伊藤裕二理事長）は7月4日、「第5回 羽倉賞受賞記念講演会」を東京都港区のフォーラムエイト本社内セミナールームで開いた。「羽倉賞」は表技協創設者の1人で、3D（立体視）映像研究・開発者として活躍した故・羽倉弘之氏の功績を称え2017年に創設され、今年6回目を迎える。この作品募集開始に伴い、前年度の羽倉賞受賞者が講演した。

前年度の羽倉賞（最優秀賞）は、理化学研究所の「SoundScope Phone」が受賞。講演では、理化学研究所 革新知能統合研究センター 音楽情報知能チームの浜中雅俊氏が登壇した。

『SoundScope Phone』は、聴きたいパートを自由に強調する、新しい音楽の聴き方を実現するシステム。一般的にパート数が増えると、それぞれのパートのメロディーや音色を楽しむのが難しくなる。SoundScope Phoneを使えば、聴きたいパートの方向へ耳を澄ませるようなポーズをするだけで、そのパートのメロディーや音色が聴きやすくなる。


浜中氏

浜中氏は「開発から15年、各種の展示会などにも出展し、毎年改良を重ねた結果、今回の受賞に結び付いた。理化学研究所が提案するAIと音楽の未来をアップル系のデバイスで楽しむことのできるシステムである」と話した。

今後は、さらに改良を重ねて、アップル系以外のデバイスにおいても利用できるようにしたいという。

準グランプリにあたる「フォーラムエイト国土強靭化賞」は、NHK放送技術研究所 空間表現メディア研究部による『Before／After VR』が受賞。

登壇した同空間表現メディア研究部の川喜田裕之研究は「これは、同じ位置で異なる時期に撮影した2つの360度映像を比較しながら視聴するシステム。通常の360度映像と同様にHMD（ヘッドマウントディスプレー）を使うことで没入体験が得られる。さらに見ている世界を手元のコントローラーでワイプすることで、2つの時期による違いを能動的に観察できる」と説明。

このワイプを実現するために、「ビフォー」と「アフター」の映像をそれぞれ半球に張り付け、境界線の位置をコントローラーで左右に動かせるようにした。このシステムは二眼立体映像にも対応しており、右目と左目にそれぞれの視点の映像を表示することで、より臨場感のある3D体験を楽しめるという。


川喜田氏

このシステムは、報道局・大阪拠点放送局と連携して開発しており、報道での活用を検討している。例えば、災害直後と復興中の映像を比較することで、細かい違いまで気づくことができる。2018年の西日本豪雨での被災地の映像例で「ビフォー」では豪雨の影響で川のようになっていたところが、復興が進んだ結果、「アフター」では元の道路になっていることが分かる。

またHMD視聴には年齢制限があるために、それに適さない幼児でも体験できるように、熊本放送局と連携してタブレット版を開発した。熊本地震からの熊本城復興のイベントでこのタブレット映像を披露したが好評だったという。

その他、優秀賞と奨励賞を受賞した計6社の代表者による講演も実施した。

表技協会長の長谷川章氏は「羽倉賞も年々レベルが上がっている。特に第5回は力作ぞろいだった。今年もよい作品が集まることを期待したい」と述べている。

科学未来館「ジオ・コスモス」

新映像作品の公開を開始

システム更新後初の独自コンテンツ

日本科学未来館（東京都江東区／以下、未来館）は、7月8日から地球・球体型大型LEDディスプレー「ジオ・コスモス」（三菱電機製）の新映像作品『Into the diverse world（イントゥー・ザ・ダイバース・ワールド）多様な世界へ』の公開を開始した。

自然や人間、また人間の営みの多様性を科学・統計データをもとに表現した約4分間の映像作品で、ジオ・コスモスを今年4月に最新のLEDパネルや映像システムに更新した後、初めて公開するオリジナル作品となる。水・雪氷の循環や地表面温度といった人工衛星による観測データ、民族や言語などに関する統計データなどを使用したこの作品では、人類が多様な地球環境に暮らし、さまざまな違いの中で生きていることを感じることができる。


新映像作品「Into the diverse world　多様な世界へ」

未来館の浅川智恵子館長は「交通やインターネットなど科学技術が発達し、国や言語にとらわれない個人レベルでの情報交流が加速したことも、人間社会の多様性をさらに複雑にしていると言えるかもしれない。このような地球に暮らす上で、それぞれの違いを認め合いながら生きられる社会を実現することが、いかに挑戦的であるかを感じられる作品だ。より明るく、より鮮やかに、より滑らかな表現が可能になった新生ジオ・コスモスの特徴を生かし、パネルの性能を最大限に引き出したカラフルな映像表現に挑戦した」と説明する。

映像に合わせて展開される音楽は、エレクトロアーチストのSnail's House（スネイルズハウス）が担当。ナレーションは、ジオ・コスモスにおける初の試みとして、AI技術を搭載したソフトウエアで制作された人工音声を活用した。

また、地球観測衛星の宇宙ビッグデータや地上の計測データを利用する、JAXA認定スタートアップ企業「天地人」がデータ設計・シナリオライティングを担当。データビジュアライズは、GKテックとクリエイティブプログラマーの早坂あきら氏が担った。

未来館の開館時間中（原則的に火曜日休館）には、決められた時間に1日数回程度、新コンテンツが上映される。

映像新聞無料メールマガジン
Vizcom
映像新聞がお届けするメールマガジン「Vizcom」は、ビジネスに役立つ情報をいち早く提供していきます。
配信登録は www.eizoshimbun.com

Ginza Sakuraya
TOTAL AV SOLUTION
ハイクオリティな映像表現に必要な機器のすべてを、
トータルにサポートできる豊富なラインナップと技術力。
それが、プロフェッショナルたちに選ばれる理由。
Capturing 撮る
Editing つなぐ
▶▶ 銀座サクラヤのCESコンセプト
Showing 見せる


映像・音響機器のレンタル・販売　株式会社 銀座サクラヤ
http://www.ginzasakuraya.com

新感覚の体験型デジタルミュージアム

「ずかんミュージアム」が刷新

深海生物などを大型映像で再現

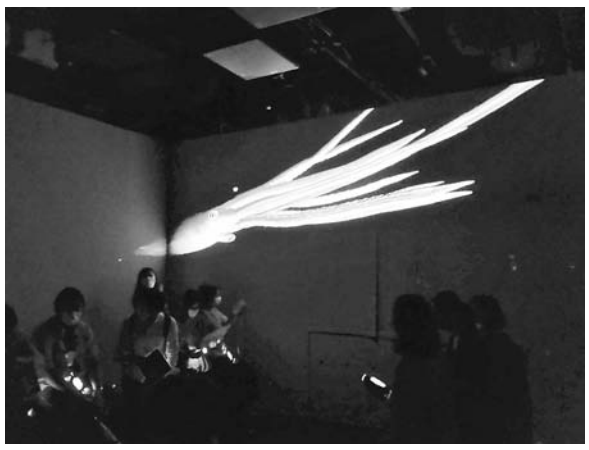
ずかんミュージアム有限責任事業組合は、図鑑の世界に入り込む新感覚の体験型デジタルミュージアム「ZUKAN MUSEUM GINZA powered by 小学館の図鑑 NEO」（以下、ずかんミュージアム）の開業1周年を記念しバージョンアップを図り、7月15日の営業から『第二章／新たな生き物に出会う旅』がスタートした。

ずかんミュージアムは、東京都中央区銀座の東急プラザ銀座6階に2021年7月16日オープン。1年で来館者数は15万人を突破した。ずかんミュージアム有限責任事業組合は、佐々木ホールディングス、小学館、電通、サニーサイドアップ、エイド・ディーシーシー、ドリル、朝日新聞社の7社からなる合同組合。

『小学館の図鑑 NEO』シリーズは、小学館の創業80周年企画として2002年に刊行し、累計約1300万部を発行。この図鑑に登場する多くの生き物が大型映像などで再現されている。

リニューアルでは、従来のアントビューゾーンに代わり「ディープシー（深海）ゾーン」を新設。最大の見どころとして、世界最大級の無脊椎動物「ダイオウイカ」が登場した。

ダイオウイカの動きは、数年前に世界で初めて撮影され、このときの現地撮影者の1人である国立科学博物館名誉研究員の窪寺恒己博士が監修した。泳いでいる動きを見られるのはこのミュージアムだけという。


リニューアル後の最大の見どころとして、世界最大級の無脊椎動物である「ダイオウイカ」が登場

ずかんミュージアムの大半のデジタル映像は、多数のプロジェクター（主に8000ルーメン前後のパナソニック製DLPプロジェクター）によるプロジェクションマッピング（マッピング）で展開されている。

マッピング機材の設置や上映環境の設定は、シンガポールに本社を置くアジア最大級のデジタル映像演出企業の日本法人、ヘキサゴンジャパンが手掛けた。

ヘキサゴンジャパンの吉田ひさよ氏は「昨年のオープン時よりもプロジェクターの台数を増やし、展示全体で約60台利用している。東京は地震が多いため定期的に微調整をしている」と話す。

本物の動物ではなく、すべてデジタル映像で作られた生き物が集まるミュージアムであるが、デジタルとリアルが融合した空間をめぐって、図鑑の中でしか見ることのできなかった生き物たちに出会い、生体を記録することのできる施設として、よりいっそうの発展を目指している。

営業時間は平日が午前11時―午後7時／土・日・祝が午前10時―19時。入場料は平日大人2000円など。

科学博物館の地球館

大型映像システムが稼働

科学技術を大画面で解説


国立科学博物館・地球館の1階に常設されている円形に囲む3面大型ワイドスクリーン

国立科学博物館（東京都台東区）の地球館では、数々の大型映像システムが稼働しており、最新の科学技術を大画面などで来館者に分かりやすく解説している。

2015年7月には大規模なリニューアルを実施しており、常設展示としては初めて、大型映像演出やインタラクティブ映像、大型遊具などに実物標本の展示をミックスさせた、新しい展示体験のスタイルを実現している。

大型映像システムで圧巻なのは、1階に常設されている円形に囲む3面大型ワイドスクリーン（パナソニック製のDLPプロジェクターを複数台使用）だ。

科学技術に関するアニメーションなどが大画面投映され、さまざまなテーマを大型ビジョンで体感できる展示映像となっている。

地球館の入口に、宇宙誕生から現在までの歩みを、宇宙史・生命史・人間史の切り口で説明するシンボルゾーン「地球史ナビゲーター」を設け、ここで地球館全体を俯瞰（ふかん）できるようにしている。

地球館全体のガイダンス展示では、未就学児とその保護者のためのコミュニケーション展示を実施。また、新エリア「親と子のたんけんひろばコンパス」では、幼い子供でも博物館や自然科学に親しみが持てるように、遊びの要素を取り入れるなど工夫を施している。

展示の設計や演出・企画などは、乃村工藝社・丹青社設計施工共同企業体が手掛けている。



展示会の入り口には大型プロジェクターが利用されている

国立科学博物館で特別展

化石ハンターの探検を解説

会場入り口に大型プロジェクター

7月16日から10月10日までの日程で、東京・上野公園の国立科学博物館において、特別展『化石ハンター展 ～ゴビ砂漠の恐竜とヒマラヤの超大型獣～』が開催されている。

この展示会は、化石ハンターとして世界的に有名なロイ・チャップマン・アンドリュースが大規模な調査隊を編成し、ゴビ砂漠へ探検をした1922年から今年が100年目であることを記念し企画された。貴重な恐竜・哺乳類化石や標本をたどりながら、アンドリュースや彼の偉業を追いかけた名だたる化石ハンターたちの探検を解説するもの。

展示会の入り口には、大画面映像で大型プロジェクターが利用されているほか、各種展示の説明用として液晶ディスプレーが多用されている。

今回は、氷河時代における哺乳類の進化に関する「アウト・オブ・チベット」説、その説を導き出す証拠となった「チベットケサイ」の全身骨格復元標本・生体復元モデルを世界初公開している。

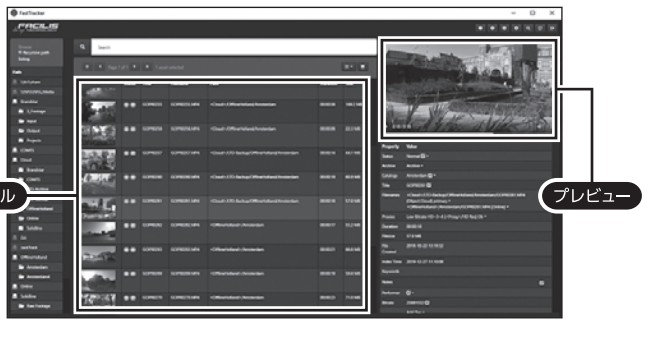
その他にも、史上最大の陸生哺乳類「パラケラテリウム」、史上最大の陸生肉食哺乳類「アンドリューサルクス」などの大迫力の標本や、次代の化石ハンターを目指す子供たちに向けてのメッセージの展示など、注目の科学展覧会である。

主催は国立科学博物館、日本経済新聞社、BSテレビ東京。後援は駐日モンゴル国大使館。

開館時間は午前9時―午後5時、入館料は一般・大学生が2000円、小・中・高校生が600円。

XenData
Cache-A TARテープの読み出しに対応
LTO/ODA/Cloudアプライアンス X1

XenDataキャッシュ、ソフトウェア、同期・検索ツールを標準装備
● アーカイブ先にLTO/ODA/Cloud選択可能
● LTFS/TARによる記録に対応
● VESAマウント可能なコンパクトボディ
● スケジュール機能搭載
● 構成イメージ
AWS S3 I Azure I Wasabi S3
X1
ネットワーク
外付けLTOドライブ

W11.7cmのコンパクトボディ
Facilis FastTrackerによるアセット管理（オプション）


ITOCHU 伊藤忠ケーブルシステム株式会社　クロスメディアソリューション本部
XenData製品の詳細は下記URLかQRコードよりご覧いただけます。
https://itochu-cable-systems.jp/products/xendata/x1/

全映協グランプリ2022
8月から4部門の作品募集
各地域映像団体が推薦・応募

全国地域映像団体協議会（全映協）は、全国各地の優れたローカルコンテンツを顕彰する「全映協グランプリ2022」の募集を8月1日から開始する。参加資格は、全映協に加盟する各地域映像団体（9地域）の推薦・応募による国内の作品。応募分野は、「番組部門」「CM・キャンペーン部門」「地域振興コンテンツ部門」「学生部門（高等学校・専門学校・短大・大学の部）」の4部門となっている。

応募対象は、2021年度（21年4月―22年3月）に完成した作品（学生部門は22年8月まで）。作品の応募形式はMP4データのみで、必要情報を記入した応募用紙と合わせて送る。地域振興コンテンツ部門については「映像コンテンツ」と、その「効果を検証した資料」を同時に提出する必要がある。

地域映像団体単位での応募になるが、地方予選を実施する場合は、各団体の開催規定により運営する。

応募締め切りは、9月2日18時必着。表彰式は「Inter BEE 2022」の開催に合わせ、幕張メッセ（千葉市美浜区）の国際会議場104会議室で11月17日16時に実施する。

【作品・応募用紙送付先】長野県上田市天神1―4―15 千曲社ビル2F（メディアフロント内）中日本映像制作社協会事務局
【問い合わせ】Eメール＝f.hizawa@m front.co.jp

ケーブルテレビ連盟中国支部
中国地区番組アワード
3部門の受賞作品を発表

日本ケーブルテレビ連盟中国支部は、「第12回中国地区番組アワード」（後援：中国総合通信局、NHK広島放送局）を開催し、中国支部会員のCATV局から応募があった企画番組部門20作品、レギュラー番組部門21作品、CM部門9作品の中から各賞を以下のとおり決定した。


『にんげんのGO! ～隧道あるはずでしょう～』（山口ケーブルビジョン）

【企画番組部門】
★1位（中国総合通信局長賞）『にじいろ羅針盤』（海士町・あまコミュニティチャンネル／島根県）▽2位『けーぶるにっぽん 彩・JAPAN「甦らせる・被災地の写真洗浄」』（倉敷ケーブルテレビ／岡山県）▽3位『廿日市がけん玉発祥 100周年の地って知っとる?』（ちゅピCOM／広島県）

【レギュラー番組部門】
★1位（NHK広島放送局長賞）『にんげんのGO! ～隧道あるはずでしょう～』（山口ケーブルビジョン／山口県）▽2位『Road to 2030～SDGsで考えるふるさとのミライ～「子どもの貧困」』（中海テレビ放送／鳥取県）▽3位『文化財と私～吹屋22のストーリー～』（吉備ケーブルテレビ／岡山県）▽審査員特別賞『満福三原（まんぷくみはら）』（三原テレビ放送／広島県）

【CM部門】
★1位（中国支部長賞）『医療法人社団 松涛会 安岡病院』（ケーブルネット下関／山口県）▽2位『ちゅピCOM Ai r―LAN 2021 女性ラップ編』（ちゅピCOM／広島県）▽3位『がんばろう周南！お年玉食事券CM』（シティーケーブル周南／山口県）▽審査員特別賞『トライフープ岡山生中継番宣』（岡山ネットワーク／岡山県）

レスター／タックシステム
映像音響制作機器展
27、28日に静岡で開催

レスターコミュニケーションズとタックシステムは、7月27、28日に静岡市のツインメッセ静岡で「映像音響制作機器展」を開く。

ファイルベースソリューションをはじめ、カラーマネジメント／トランスコーダー、コンテンツ管理、音声解析ツール、MAソリューション、放送局向けコンソール、レンタル商材、LEDショールーム3D体験に関する製品を展示する。

【日時】7月27日／13―17時、28日／10―16時
【会場】ツインメッセ静岡 西館 第1小展示場（静岡市駿河区曲金3―1―1）
【詳細】www.restarcc.com

DCAJがオンラインサロン
3D点群計測の意義など
大阪万博に向けて意見交換

デジタルコンテンツ協会（DCAJ）は、オンラインサロン「弾丸!! ドバイ万博日本館3D点群計測道中記 ～2025大阪・関西万博に向けて～」を7月29日に開く。スピーカーは、クモノスコーポレーション執行役員／戦略統括部統括部長／グローバルビジネス責任者の船越亮氏。参加無料（Zoom使用）。

船越氏は、3月31日に閉幕したドバイ万博において、閉幕後取り壊されることになる日本館の3D点群計測をするため、撮影チームのリーダとして同月29日に日本を発った。作業は、閉幕前日と閉幕日の2日間。そもそも行くことを最終決定したのが、同月25日という綱渡りだった。

このドバイ万博での話だけでなく、建造物の3D点群計測の意義、2025年開催予定の大阪・関西万博におけるデジタルツインをはじめとする取り組みなどについて、参加者と意見を交わす。

【日時】7月29日／16―17時
【定員】40人（定員に達し次第締め切る）
【詳細・申し込み】www.dcaj.or.jp/news/2022/07/DCAJ-onlinecommunity0729.html

人事

◇クロステレビ（東京都新宿区／7月1日付）
▽副会長 藤本俊介（エネット 代表取締役社長）
▽理事 芹澤博雅（モンタージュ 取締役）、波多岡博（放送映画製作所 代表取締役会長）、三浦啓一（事務局長）＝以上鉄男▽代表取締役社長 高見高見鉄宏
◇映像文化製作者連盟（東京都中央区／6月14

映像入札王のご案内

映像新聞社では、株式会社ズノーと業務提携し、同社の展開する入札情報提供サービスと連携した「映像入札王」を提供いたします。

入札王
入札情報提供サービス

入札王に国内唯一のラインナップ登場！
源流データベース「予算書・予定情報」で入札を先取り！

映像入札王とは？

中央省庁、独立行政法人、地方自治体等の
入札情報・落札情報・予定情報・予算書情報を
提供するサービスです。
映像制作・関連機器、ホームページ制作、広告制作、
情報処理、調査等あらゆる分野の最新の入札情報を
毎日ご提供します。

その特長は

① 4分野の情報を検索できる！
◆4分野とは？⇒“入札情報” “落札情報” “予定情報” “予算書情報”
◆予定情報・予算書情報⇒入札情報の先取りができる
◆落札情報⇒案件名、落札会社名から検索可能

② 新着の入札情報、 予定情報をメールで受け取ることができる！
◆毎日収集⇒速報性に優れている
◆200 メールアドレスへ配信できる
◆キーワードの多様な設定が可能

③ 情報検索結果を CSV ダウンロードできる！
◆入札情報・落札情報⇒2010 年度～　ダウンロード可能
◆予定情報⇒2019 年度（一部）、2020 年度～　ダウンロード可能
◆仕様書、説明書等の添付ファイルの閲覧ができる

10 日間 お試し
無料トライアル実施中
トライアル期間で入札王の
効果を実感してください
http://www.eizoshimbun.com

上記 URL からのエントリーで割り引き適用となります

●お問い合わせはこちらへ。
株式会社ズノー 入札王事務局　〒106-0044 東京都港区東麻布 1 丁目 5-2
ザイマックス東麻布ビル 8F　TEL：(03) 6441-0332 ／ FAX：(03) 6441-0336

SONY

クラウドがもたらす革新的ワークフロー

C3 Portalが映像素材の伝送・プレビュー・共有フローの常識を変える。



スマートフォン経由で
クラウドへ自動転送

収録中素材の追っかけ
転送＆プレビュー

クラウドならではの
メディア共有フロー

素材伝送は、ストリーミング、ファイル転送に両対応。用途に合わせて伝送方法を選択できます。
カメラからスマートフォンへのファイル転送は即座に完了。撮影後や移動中にカメラから取り外し、
スマートフォン単体でプレビューやアップロードを継続できるため、大幅な効率化を実現します。

カメラ連携クラウドサービス
C3 Portal
サービス利用料　75,000円～/月（税抜）

C3 PortalのWeb
サイトはこちら

C3P

専用アプリ「C3 Portal App」はお手持ちの
スマートフォンにてご利用いただけます。

App Store からダウンロード
Google Play で手に入れよう

ソニーのプロフェッショナル/
業務用映像制作機材の情報は　sony.jp/pro-cc/

広告掲載商品に関するお問い合わせは
ソニー業務用商品購入相談窓口　［フリーダイヤル］0120-580-730　受付時間：9:00～18:00
（土・日・祝日・弊社休業日は除く）

◎「ソニー」および「SONY」、ならびにソニーの商品名、サービス名およびロゴマークは、ソニーグループ株式会社またはその関連会社の登録商標または商標です ◎本文中にTM、®マークは明記していません ◎商品を安全に使うため使用前に必ず「取扱説明書」をよくお読みください ◎掲載商品の仕様や外観は改良のため予告なく変更することがあります

Sony Marketing Inc.
ソニーマーケティング株式会社